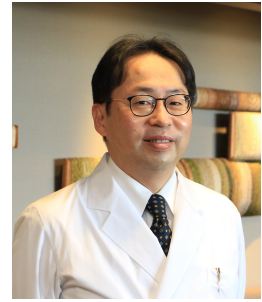


知多厚生病院 | 年報

(令和 4 年度)

発刊にあたり（ご挨拶）

知多厚生病院 院長 高橋 佳嗣



知多厚生病院は、1964年（昭和39年）6月に愛知県厚生連9番目（当時）の病院として開設され、以後知多半島南部における急性期医療と救急医療の拠点病院として診療に携わってまいりました。平成11年からは知多半島医療圏の第二種感染症指定医療機関、平成14年からは篠島や日間賀島など離島医療を支援するへき地医療拠点病院、平成16年からは臨床研修指定病院、平成19年からは災害拠点病院に指定されるなど、知多半島南部の公的医療機関として重要な責務を果たしております。

当院の主な診療圏である美浜町・南知多町では、愛知県の平均よりも人口減少・少子高齢化が大きく進行しているとともに、地域の各医療機関においても医師の高齢化も進み、医療の確保が難しくなっています。

このような医療環境においても皆様が「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができる（Aging in Place）」ように当院では急性期医療・亜急性期医療・救急医療・在宅医療などの提供を通して地域包括ケアシステムの一角を担い地域の医療を支えております。

さて、令和4年度の医療情勢を振り返ると前年度に引き続き新型コロナウイルスの対応に追われた一年ではありましたが、今後のAfter コロナ・With コロナへの道を模索する一年でもありました。当院では地域の流行度に合わせて院内の医療提供体制を変化させながら、接触者外来・発熱外来10,632名（前年度比246%）、入院患者延べ1,598名（実患者233名）（前年度比117%）の診療を行いこの地域の新型コロナウイルス感染症治療の中心的役割を勤めてまいりました。さらに一般診療においても地域の医療ニーズに応じて救急搬送件数は前年度比113%、紹介・逆紹介の件数もそれぞれ前年度比100%・121%と増加しました。

このような一年を過ごした今、あらためて健康が人々の生活の根源であり、それを医療がしっかりと支えていかねばならないと実感しております。

今後も知多厚生病院は『保健・医療・福祉の活動を通じて、地域住民が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献する』という病院理念に基づき、地域とともに地域を考え、『Aging in Place 知多半島モデル』を構築し、さらにこの地域の『まちづくりの拠点』としてもお役に立てますよう、職員一同全力を尽くし取り組んで参ります。引き続き皆様のご指導とご支援を宜しくお願い申し上げます。

令和6年1月

病院基本情報

知多厚生病院 理念

私たちは保健・医療・福祉の活動を通じて、地域住民が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献します。

知多厚生病院 基本方針

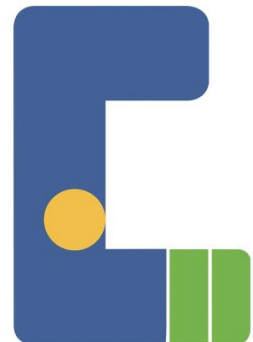
- 1、地域住民のニーズに応える診療体制の充実に努めます。
- 1、救急医療・災害医療の充実に努めます。
- 1、医療技術と接遇向上に努めます。
- 1、患者の権利とプライバシーを尊重し、安全で快適な、患者中心の医療サービスを提供します。

*ロゴマークについて

ロゴマーク全体で、知多厚生病院（Chitakosei Hospital）の頭文字“C”と、知多半島を表しています。

また、右下の2つの四角は、篠島・日間賀島を、丸は、知多半島における当院の位置を表しています。

全体として、知多半島をイメージさせる海・空の色である明るい青を基調に、開放感・希望を、知多半島全域で盛んな農業（JA）をイメージさせる明るい緑は安心・安全・癒しを、美浜町を中心に栽培が盛んなみかんや、太陽をイメージさせる明るいオレンジは、躍動感・歓喜・溢れる生命感を表しています。



知多厚生病院 概要

令和5年3月31日 現在

名 称

愛知県厚生農業協同組合連合会 知多厚生病院

所在地

〒470-2404

愛知県知多郡美浜町大字河和字西谷81番地6

TEL 0569-82-0395

FAX 0569-82-4333

E-MAIL c-hospital@chita.jaaikosei.or.jp

ホームページ <https://chita.jaaikosei.or.jp>

設立年月日

昭和39年6月1日

病床数

199床（一般193床（地域包括ケア病棟85床含む） 感染症6床）

診療科（25科）

内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・糖尿病内科・神経内科・血液内科・小児科・外科・消化器外科・乳腺外科・肛門外科・内視鏡外科・血管外科・整形外科・リウマチ科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻いんこう科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科

各種指定

救急告示病院、地域災害拠点病院、へき地医療拠点病院、臨床研修指定病院、
労災指定医療機関、母体保護法指定医療機関、生活保護法指定医療機関、
指定自立支援医療機関、更生・育成医療指定医療機関、養育医療指定医療機関、
性病予防法指定医療機関、被爆者一般疾病指定医療機関、健康保険法指定医療機関、
国民健康保険指定医療機関、第2種感染症指定医療機関、肝疾患専門医療機関、
病院群輪番制病院、特定疾病治療研究医療機関、小児慢性特定疾病治療研究医療機関、
愛知DMA T指定医療機関、人間ドック健診施設機能評価認定、
医療被ばく低減施設認定

関連施設

知多厚生病院健康管理支援センター
南部知多訪問看護ステーション
知多厚生病院附属篠島診療所

管理者

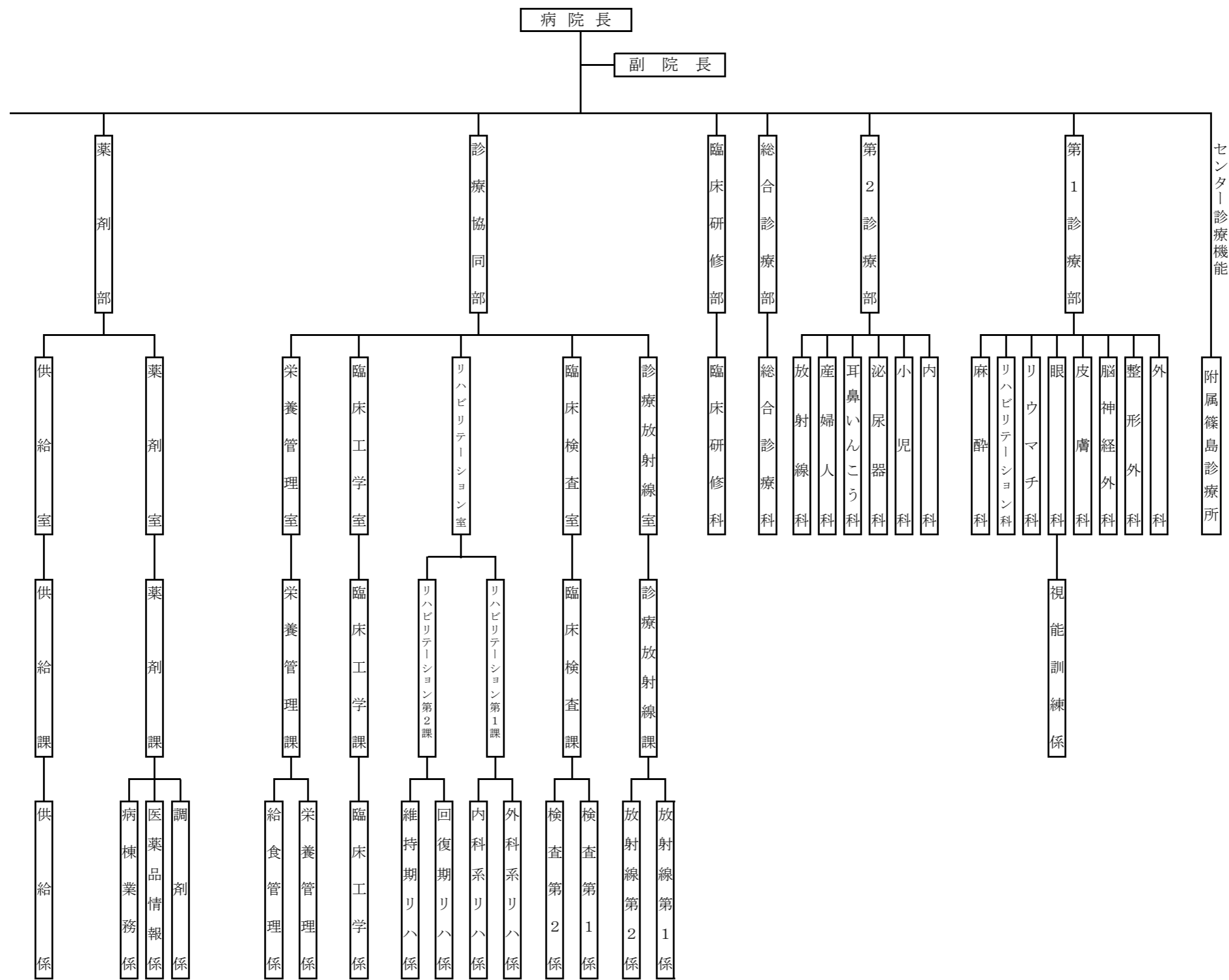
病院長： 高橋 佳嗣
副院長： 村元 雅之、福島 庸行、富本 茂裕
第1診療部長： 福島 庸行 医療情報部長： 中塚 雅雄
診療協同部長： 迫 欣二 薬剤部長： 齋藤 宏明
看護部長： 近藤 貴代 事務部長： 池田 智志

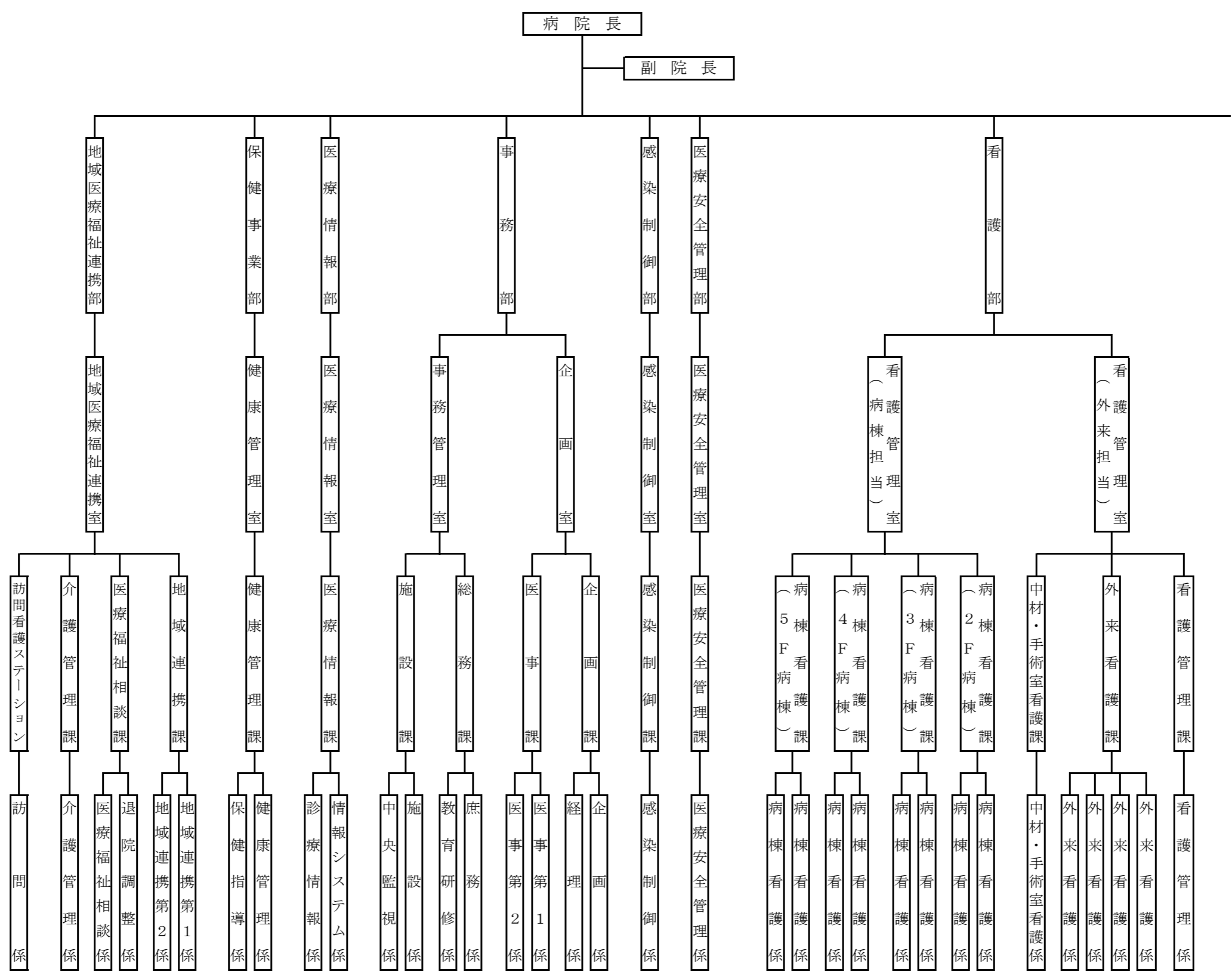
知多厚生病院 沿革

令和5年3月31日 現在

昭和38年	3月	知多郡美浜町河和に厚生連病院建設決定
昭和39年	6月	知多厚生病院診療開始 内科・外科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科 病床数 113床
昭和42年	3月	美浜町・南知多町伝染病組合伝染病舎24床併設 (病床数 137床)
昭和43年	10月	病棟増築(病床数 179床)
昭和49年	7月	救急医療施設開設 整形外科開設 病棟・リハビリ棟増築(病床数 217床)
昭和54年	2月	総合病院として認可
昭和55年	6月	病棟増築(病床数 222床)
昭和57年	3月	診療棟増改築
	4月	小児科開設
	6月	皮膚科開設
昭和58年	1月	放射線科開設
	2月	病棟増改築・伝染病舎改築(病床数 277床)
平成3年	10月	知多厚生病院附属篠島診療所開設
平成6年	4月	脳神経外科開設
平成8年	4月	泌尿器科開設
平成9年	10月	南部知多訪問看護ステーション開設
平成10年	3月	病棟改築(病床数 一般260床・伝染8床)
平成11年	4月	第2種感染症指定医療機関指定 (病床数 一般260床・感染6床)
平成11年	10月	居宅介護支援事業所 知多厚生病院介護保険センター開設
平成14年	2月	療養型病床開設(病床数 一般212床・療養48床・感染6床)
	4月	へき地医療拠点病院指定
平成15年	5月	病床区分変更(病床数 一般206床・療養54床・感染6床)
	10月	臨床研修病院指定
平成16年	5月	オーダーリングシステム稼働
平成19年	3月	災害拠点病院指定

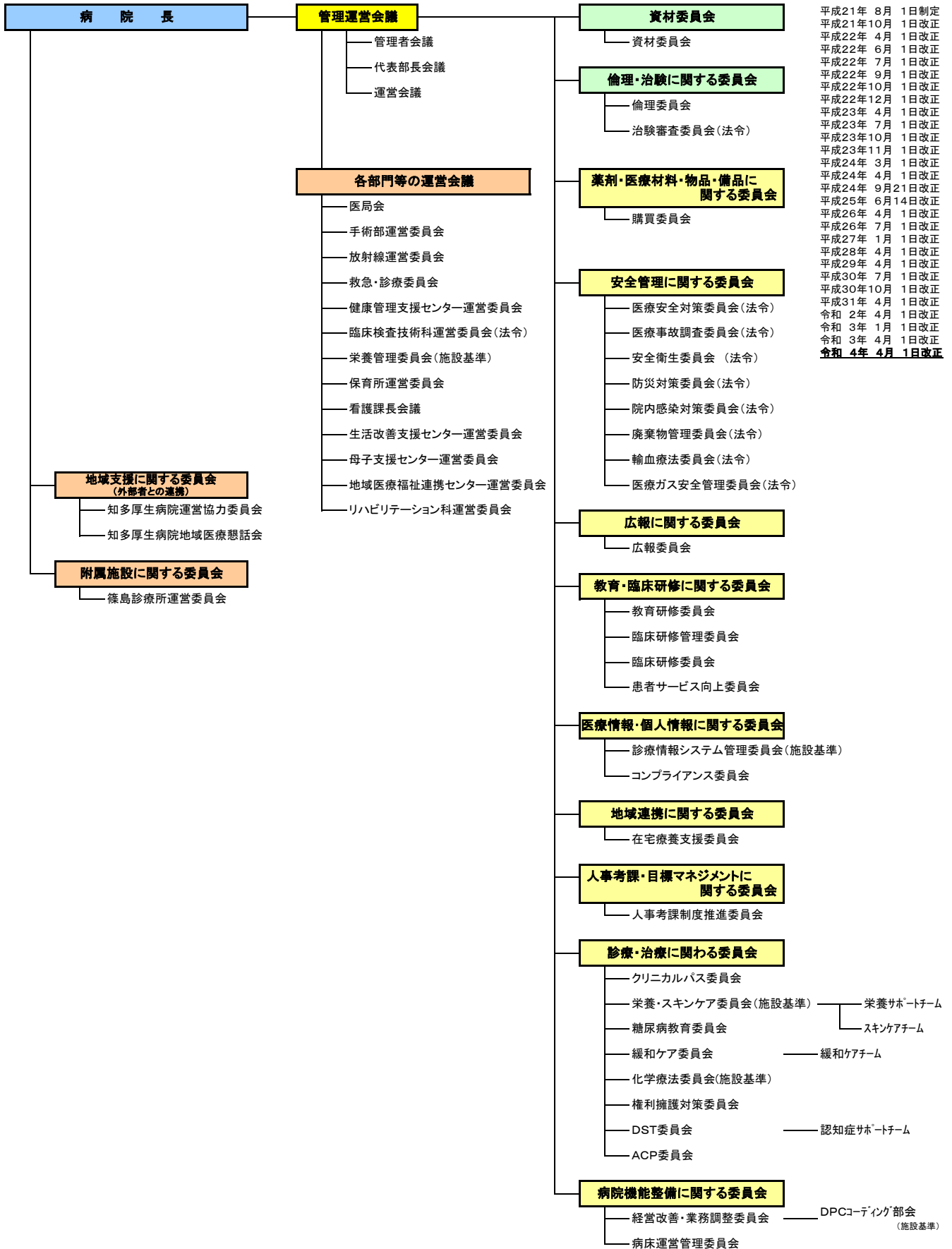
平成21年	8月	診療棟改築 電子カルテシステム稼働 ID-Link導入
平成22年	9月	病床区分変更（病床数 一般199床・療養54床・感染6床）
平成23年	9月	7対1入院基本料取得
平成25年	12月	DMA T（災害派遣医療チーム）結成
平成26年	4月	DPC（診断群分類）対象病院
	6月	回復期リハビリテーション病棟開設 （一般〔7対1看護基準〕149床、回復期リハ50床、療養54床、感染6床）
	9月	開院50周年記念式典・病院祭開催
平成27年	7月	認知症対応力向上事業実施病院
平成28年	4月	DMA Tを派遣（熊本地震）
平成29年	3月	電子カルテシステム更新
	7月	人間ドック健診施設機能評価認定
平成30年	2月	地域包括ケア病棟開設 （回復期リハビリテーション病棟より転換） （一般〔7対1看護基準〕149床、地域包括ケア50床、療養54床、感染6床）
平成30年	12月	病床区分変更 （一般〔7対1看護基準〕157床、地域包括ケア42床、療養54床、感染6床）
平成31年	2月	オンライン診療・オンライン服薬指導開始
令和元年	5月	ホームページリニューアル CT装置更新
令和2年	2月	感染症病棟 COVID-19疑い患者受け入れ
	3月	COVID-19帰国者・接触者外来を開設 COVID-19発熱外来を設置
令和2年	8月	病床削減・病床区分変更（療養病床廃止）病床数199床 （一般〔7対1看護基準〕108床、地域包括ケア85床、感染6床）
令和3年	5月	感染症病床8床をハイケアユニット入院管理料に届出 コロナワクチン接種開始
令和4年	1月	アンギオ装置更新
	2月	自動分析装置更新
令和4年	12月	病棟にて新型コロナウイルスのクラスター発生
令和4年	3月	人間ドック健診施設機能評価受審・更新





会議体規程 別表 1

知多厚生病院 会議・委員会組織図



様式1 令和4年度事業計画 事業所別事業方針(病院)

【環境認識】

事業所名:知多厚生病院

少子高齢化、人口減少が著しい知多半島南部地域において、医療や介護を必要とする高齢者は、2030年度まで現状を維持する人口推移予測が出ています。このため当地域には引き続き一定数の医療需要が見込まれることから、当院は地域における唯一の公的医療機関として、救急をはじめとした政策医療を担うことを柱とし、そのためにも地域連携をより強固なものとして、地域の医療需要に応じていくことが求められている。反面、少子化による働き手の減少は、より深刻化することが想定され、各職種の雇用確保対策が必要となり、働き方改革などの取り組みが重要となる。医療環境が急変するなか、私たちが理念に掲げる「保健・医療・福祉の活動を通じて、地域住民が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献します」を追求し、時代の変化に合わせた自らの改革を積極的に実践するとともに、経営の効率化を中心とした持続可能な病院経営を目指すことが求められている。

【事業方針】

- ①地域の役割分担徹底と救急と紹介患者受け入れの強化
- ②職員一人ひとりがやりがいを持ち活気ある風土の醸成
- ③持続可能な病院経営の追求
- ④患者が安心できる医療提供体制の充実

事業目標	具体的実施目標
① 医療事業	
救急医療の充実	救急患者の受入体制、応援体制の継続
	近隣地域を含めた消防との連携強化
診療体制の充実	常勤医師確保に向けた大学との連携強化 地域枠・自治医大・順天堂大からの派遣継続
	臨床研修医確保に向けた活動強化
	急性期・地域包括・感染病棟の看護体制確保
	発熱・陽性者外来、コロナワクチン接種の対応を含む外来看護体制確保
	周産期医療の継続 篠島診療所の安定的運営
② 医療の質・安全強化	
医療の質の向上	チーム医療の強化
	ES・CS活動の推進
	ご意見箱等からの改善内容の検討・実施
医療安全管理の充実	レポート等からの情報分析による事故予防策の検討・実施
感染制御の充実	感染症指定医療機関としての患者受入体制の充実
	感染対策にかかる職員教育の実施
災害医療体制の充実	災害拠点病院として機能発揮するための職員教育の実施
③ 地域との連携強化	
地域連携体制の充実	近隣地域の病院・開業医との連携強化
	紹介率の向上
	地域包括ケアシステムの推進
	入退院支援の実施
行政との連携体制の充実	地元行政との連携強化、補助金の継続的交渉
住民との連携体制の充実	広報誌、ホームページを通じて情報発信
	コロナ明けの市民公開講座の開催

④ 介護事業	
訪問看護ステーションの充実	利用者確保に向けた病院・施設等との連携強化
⑤ 保健事業	
保健事業の充実	人間ドック及び各種健診の利用者確保
サービスと質の追求	要精検受診者確保に向けた取組み
⑥ 経営管理	
経営の安定化に向けた対策	診療報酬改定による新規基準取得に向けた検討・実施
	施設基準維持にむけた対策の検討
	付加価値増加策の検討
	病床利用率の向上
	費用削減策の検討・実施
	レスパイト入院の推進
働き方改革への対応	タスクシフト・タスクシェアの検討・実施
	時間外勤務削減に向けた業務見直し
医療情報システムの安定稼働	電子カルテ、部門システム更新の検討



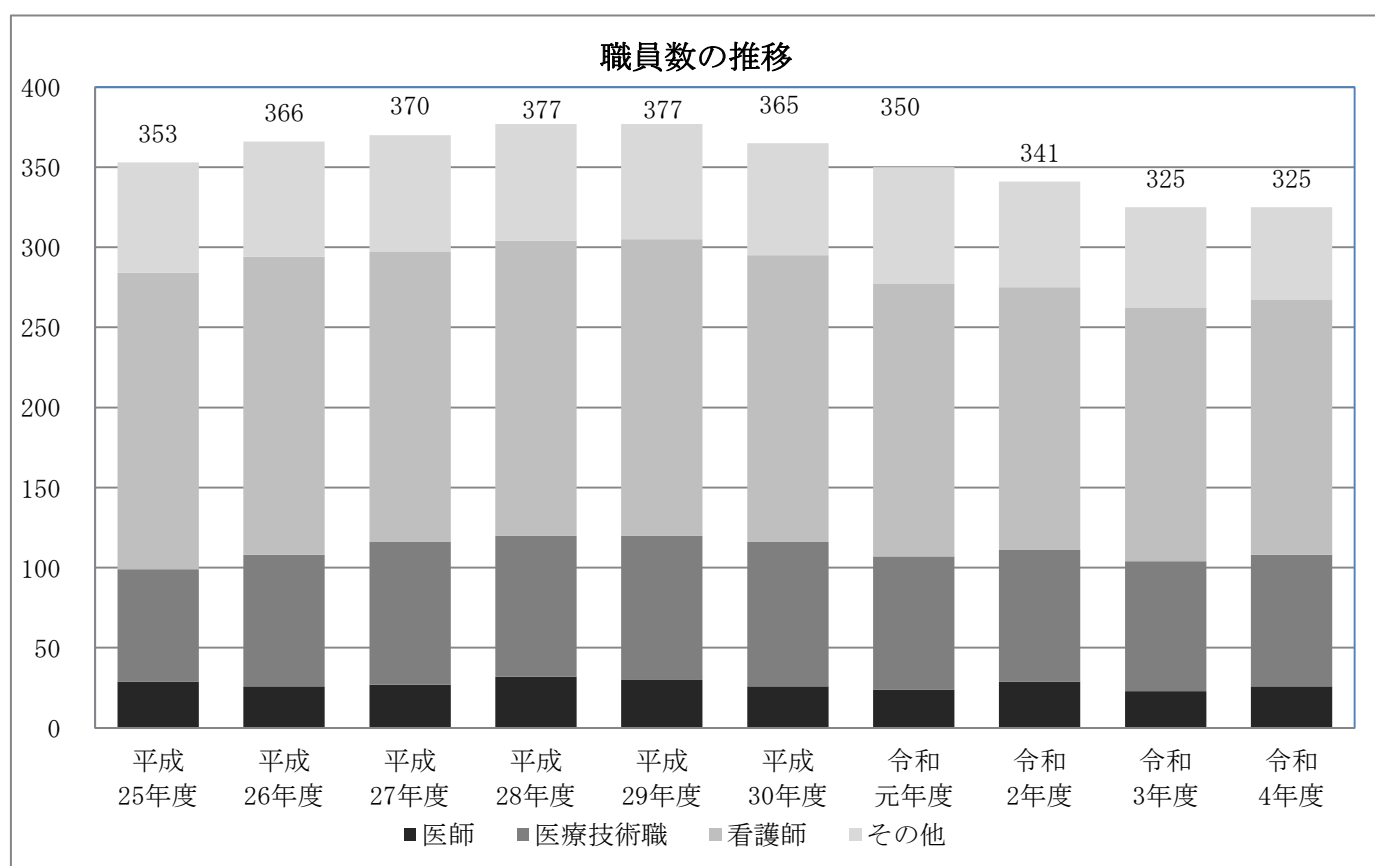
統計資料

職員数の推移……………	1 3
過去3か年の推移	
診療科別延べ患者数……………	1 4
科別時間外患者取扱数……………	1 5
市町村別時間外患者取扱数……………	1 5
市町村別時間外患者 (救急車搬入件数)……………	1 5
診療科別在院延べ患者数 及び新入院患者数……………	1 6
診療科別退院患者数 及び平均在院日数……………	1 6

■ 職員数の推移

	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
医師	29	26	27	32	30	26	24	29	23	26
医療技術職	70	82	89	88	90	90	83	82	81	82
看護師	185	186	181	184	185	179	170	164	158	159
その他	69	72	73	73	72	70	73	66	63	58
総数	353	366	370	377	377	365	350	341	325	325

※ その他・・・事務職、技能職、作業職



■ 過去3カ年の推移

1. 診療科別延べ患者数（医療＋介護）

年度	令和2年度		令和3年度				令和4年度			
	外来	入院	外来		入院		外来		入院	
科	患者数	患者数	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比
内科	36,965	24,632	39,658	107.3%	26,195	106.3%	43,569	109.9%	26,381	100.7%
小児科	5,305	68	7,249	136.6%	96	141.2%	8,051	111.1%	86	89.6%
外科	7,699	6,324	8,539	110.9%	7,492	118.5%	8,444	98.9%	6,340	84.6%
整形外科	20,159	8,801	20,131	99.9%	7,757	88.1%	20,445	101.6%	11,836	152.6%
脳神経外科	17,205	17,720	17,576	102.2%	15,078	85.1%	17,009	96.8%	13,094	86.8%
皮膚科	12,322	1,196	13,857	112.5%	1,434	119.9%	12,465	90.0%	284	19.8%
泌尿器科	7,028	435	7,347	104.5%	368	84.6%	7,467	101.6%	520	141.3%
産婦人科	4,484	772	5,115	114.1%	907	117.5%	5,436	106.3%	652	71.9%
眼科	9,602	1,130	10,238	106.6%	934	82.7%	10,765	105.1%	1,197	128.2%
耳鼻 いんこう科	9,090	199	7,913	87.1%	103	51.8%	9,994	126.3%	401	389.3%
篠島/ 療養介護	3,528	3,588	3,819	108.2%	0	0.0%	3,628	95.0%	0	0.0%
合計	133,387	64,865	141,442	106.0%	60,364	93.1%	147,273	104.1%	60,791	100.7%
平均患者数 (病院のみ)	532.2	177.7	564.0	106.0%	165.4	93.1%	591.1	104.8%	166.6	100.7%
※診療日数 (病院)	244	365	244		365		243		365	

2. 科別時間外患者取扱数

年 度	令和2年度		令和3年度				令和4年度			
	外来	入院	外来		入院		外来		入院	
科	患者数	患者数	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比
内科	1,412	337	2,518	178.3	338	100.3	6,220	247.0	394	116.6
小児科	214	0	331	154.7	0	0.0	765	231.1	0	0.0
外科	251	64	239	95.2	62	96.9	223	93.3	49	79.0
整形外科	514	77	490	95.3	67	87.0	530	108.2	115	171.6
脳神経外科	393	183	398	101.3	157	85.8	422	106.0	141	89.8
皮膚科	258	4	176	68.2	10	—	214	121.6	2	20.0
泌尿器科	113	1	129	114.2	3	300.0	130	100.8	2	66.7
産婦人科	55	2	25	45.5	20	1000.0	35	140.0	29	145.0
眼科	40	0	28	70.0	0	0.0	24	85.7	1	0.0
耳鼻 いんこう科	150	3	129	86.0	0	0.0	134	103.9	8	0.0
合 計	3,400	671	4,463	131.3	657	97.9	8,697	194.9	741	112.8

3. 市町村別時間外患者取扱数

年 度	令和2年度		令和3年度				令和4年度			
	外来	入院	外来		入院		外来		入院	
市町村	患者数	患者数	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比
美浜町	1,535	248	1,886	122.9	277	111.7	3,693	195.8	256	92.4
南知多町	1,184	323	1,322	111.7	271	83.9	1,868	141.3	298	110.0
武豊町	226	40	392	173.5	40	100.0	924	235.7	66	165.0
半田市	66	17	209	316.7	14	82.4	692	331.1	26	185.7
常滑市	74	17	136	183.8	32	188.2	372	273.5	45	140.6
その他	315	26	520	165.1	23	88.5	1,148	220.8	50	217.4
合 計	3,400	671	4,465	131.3	657	97.9	8,697	194.8	741	112.8

4. 市町村別時間外患者（救急車搬入件数）

年 度	令和2年度		令和3年度				令和4年度			
	外来	入院	外来		入院		外来		入院	
市町村	患者数	患者数	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比
美浜町	148	136	205	138.5	149	109.6	212	103.4	138	92.6
南知多町	177	205	204	115.3	170	82.9	204	100.0	177	104.1
その他	156	58	253	162.2	79	136.2	324	128.1	133	168.4
合 計	481	399	662	137.6	398	99.7	740	111.8	448	112.6

5. 診療科別在院延べ患者数及び新入院患者数

	在院延患者数			新入院患者数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
内科	21,918	23,303	24,974	1,207	1,274	1,393
小児科	48	66	44	20	30	22
外科	5,918	7,072	5,936	391	413	382
整形外科	8,505	7,481	11,485	305	271	367
脳神経外科	17,179	14,560	12,683	548	517	453
皮膚科	1,112	1,334	246	91	94	36
泌尿器科	414	344	491	18	26	30
産婦人科	673	793	527	94	115	93
眼科	894	740	957	236	194	246
耳鼻いんこう科	187	99	339	13	2	62
一般計	56,848	55,792	57,682	2,923	2,936	3,084
療養	3,570	0	0	7	0	0
感染	1,117	1,419	1,511	119	199	155
合計	61,535	57,211	59,193	3,049	3,135	3,239

6. 診療科別退院患者数及び平均在院日数

	退院患者数			平均在院日数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
内科	1,182	1,286	1,407	18.3	18.2	17.8
小児科	20	30	22	2.4	2.2	2.0
外科	405	424	393	14.9	16.9	15.3
整形外科	295	272	344	28.4	27.6	32.3
脳神経外科	540	522	447	31.6	28.0	28.2
皮膚科	84	98	36	12.7	13.9	6.8
泌尿器科	21	23	32	21.2	14.0	15.8
産婦人科	99	111	92	7.0	7.0	5.7
眼科	236	194	244	3.8	3.8	3.9
耳鼻いんこう科	12	4	62	15.0	33.0	5.5
一般計	2,894	2,964	3,079	19.5	18.9	18.7
療養	28	0	0	204.0	-	-
感染	107	187	90	9.9	7.4	12.3
合計	3,029	3,151	3,169	20.2	18.2	18.5

診療科別医療実績

内科	1 9
小児科	2 2
外科	2 4
整形外科	2 7
脳神経外科	2 9
皮膚科	3 1
泌尿器科	3 3
産婦人科	3 4
眼科	3 6
耳鼻いんこう科	3 8
麻酔科	3 9

■ 内 科

1. 医師紹介

氏 名	役職・専門分野	医師免許取得
宮本 忠壽	名誉院長 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本消化管学会胃腸科認定医 日本医師会認定産業医 日本消化器病学会東海支部評議員 日本消化器内視鏡学会東海支部評議員	昭和 52 年
高橋 佳嗣	副院長兼感染制御部長兼内科代表部長 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医	昭和 62 年
富本 茂裕	第 2 診療部長兼総合診療部長兼循環器内科部長 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本循環器学会専門医 日本高血圧学会指導医	平成 2 年
丹村 敏則	健康管理支援センター長 日本内科学会認定総合内科専門医・指導医 日本糖尿病学会専門医・指導医 日本東洋医学会専門医・指導医 産業衛生学会専門医・指導医 日本プライマリケア連合学会認定医 日本人間ドック学会認定医・指導医 日本病態栄養学会 NST コーディネーター 労働衛生コンサルタント	昭和 57 年
川口 博之	一般内科部長	昭和 62 年

田中 創始	総合内科部長兼消化器内科部長 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本病院総合診療医学会認定特任指導医・評議員 日本消化器病学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本肝臓学会専門医 日本膵臓学会認定指導医	平成 8 年
藤岡 一敏	消化器内科医長 日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医	平成 23 年
福島 大史	循環器内科 日本内科学会認定内科医	平成 27 年
矢野 峻伍	一般内科	平成 30 年
渡邊 隆太郎	一般内科	平成 31 年
佐橋 篤佳	一般内科	平成 31 年
服部 智子	一般内科 ※令和 4 年 9 月末退職	令和 2 年
眞嶋 泉	一般内科 ※令和 4 年 10 月～	令和 2 年

2. 専門外来・主な取り組み

脳神経内科（月・火曜日）、循環器内科・血液内科（火曜日）、膠原病内科（水曜日）

呼吸器内科（木曜日）、糖尿病内科（木・金曜日）

消化器・肝臓病（第 1・3 金曜日）、ペースメーカークリニック（第 2・4 月曜日）

3. 診療実績

(単位：人、日)

		令和2年度	令和3年度	令和4年度
外来	延べ患者数	40,067	39,658	43,569
	一日平均患者数	164.2	163.2	179.3
入院	延べ患者数	28,306	26,195	26,381
	一日平均患者数	67.5	71.8	72.3
	平均在院日数	17.3	17.7	17.9

4. 令和4年度クリニカルインディケータ（DPCデータより）

(1)入院症例トップ3

傷病名	患者数
その他の感染症（真菌を除く）（コロナウイルス感染症2019）	170
心不全	139
小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む）	131

(2)手術症例トップ3

傷病名	患者数
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm未満）	144
内視鏡的胆道ステント留置術	25
内視鏡的乳頭切開術（胆道碎石術を伴う）	14

■ 小児科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
安井 奈津子	小児科部長 日本小児科学会専門医 日本アレルギー学会専門医 日本周産期新生児医学会新生児蘇生法 「専門」コース（Aコース）修了 小児科全般・アレルギー疾患	平成 20 年
渡會 麻未	小児科医長 日本小児科学会専門医	平成 26 年

2. 専門外来・主な取り組み

- ・慢性疾患（喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、低身長、甲状腺疾患、夜尿症、てんかんなど）：月曜午後、木曜午後
- ・乳児健診：水曜午後
- ・1ヶ月健診：水曜午後
- ・予防接種：火曜午後・金曜午後

3. 診療実績

（単位：人、日）

		令和2年度	令和3年度	令和4年度
外来	延べ患者数	5,305	7,249	8,051
	一日平均患者数	21.7	29.8	33.1
入院	延べ患者数	68	96	86
	一日平均患者数	0.2	0.3	0.2
	平均在院日数	2.4	3.2	2.0

4. 令和4年度クリニカルインディケーター（DPCデータより）

(1) 入院症例トップ3

傷病名	症例数
食物アレルギー	6
妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害	5
小人症	3
下垂体機能低下症	3

■ 外科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
村元 雅之	副院長 兼 第1診療部長 兼 外科代表部長 日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 消化器がん外科治療認定医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本静脈経腸栄養学会認定医・評議員 愛知臨床外科学会評議員	昭和61年
保里 恵一	第1乳腺外科部長 兼 篠島診療所長 日本外科学会専門医 日本乳癌学会専門医 日本消化器外科学会専門医・指導医 消化器がん外科治療認定医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医 マンモグラフィ読影認定医 日本化学療法学会評議員 日本医師会産業医	昭和56年
長谷川 毅	一般外科部長 日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医 ※令和4年11月赴任	平成4年
杉戸 伸好	中央手術部長 日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医 消化器がん外科治療認定医 日本消化管学会胃腸科専門医・指導医 日本がん治療認定医	平成10年

川瀬 麻衣	第2乳腺外科部長 日本乳癌学会専門医 日本外科学会専門医	平成16年
内山 祐子	一般外科 日本外科学会専門医	平成27年

2. 専門外来・主な取り組み

乳腺専門外来 栄養サポート外来 褥瘡外来 血管外科
 腹腔鏡手術 内痔核手術 化学療法

3. 診療実績

(1) 基本指標

(単位：人、日)

		令和2年度	令和3年度	令和4年度
外来	延べ患者数	7,699	8,539	8,444
	一日平均患者数	31.6	35.1	34.7
入院	延べ患者数	6,324	7,492	6,340
	一日平均患者数	17.3	20.5	17.4
	平均在院日数	14.6	20.7	15.5

4. 令和4年度クリニカルインディケータ（DPCデータより）

(1)入院症例トップ3

傷病名	症例数
乳房の悪性腫瘍	53
結腸（虫垂を含む）の悪性腫瘍	44
鼠径ヘルニア	40

(2)手術症例トップ3

傷病名	症例数
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	38
腹腔鏡下胆嚢摘出術	25
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	16
乳癌悪性腫瘍手術（乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴わない））	16

5. その他

(1)手術件数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
全手術件数	253	266	252	291	268
全身麻酔	191	174	188	196	184
腹腔鏡下胆嚢摘出術	43	33	26	24	25
大腸癌 （うち腹腔鏡下手術）	27(18)	26(22)	25(18)	21(20)	15(13)
乳癌手術	13	20	32	39	34
胃癌 （うち腹腔鏡下手術）	11(3)	9(3)	7(3)	10(3)	5(2)
膵切除術	6	3	5	5	0
肝切除術 （うち腹腔鏡下手術）	8(1)	1	3	3	1

■ 整形外科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
山田 聡	整形外科代表部長 日本整形外科学会専門医	平成5年
坪井 義晃	リハビリテーション科部長 日本整形外科学会専門医	平成17年
土井 孝信	リハビリテーション科医長 一般整形外科	平成24年

2. 専門外来・主な取り組み

- ・リウマチ科（毎週火曜日）

3. 診療実績

（単位：人、日）

		令和2年度	令和3年度	令和4年度
外来	延べ患者数	20,159	20,131	20,445
	一日平均患者数	82.6	82.8	84.1
入院	延べ患者数	8,801	7,757	11,836
	一日平均患者数	24.1	21.3	32.4
	平均在院日数	28.4	28.5	31.3
手術件数		149	219	266

4. 令和4年度クリニカルインディケーター（DPC データより）

(1) 入院症例トップ3

傷病名	症例数
股関節・大腿近位の骨折	102
胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む)	45
足関節・足部の骨折・脱臼	21

(2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
骨折観血的手術(肩甲骨、上腕、大腿)	74
骨折観血的手術(前腕、下腿、手舟状骨)	26
人工骨頭挿入術(肩、股)	25

■ 脳神経外科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
水野 志朗	名誉院長 日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医 脳神経血管内治療学会専門医	昭和 56 年
福島 庸行	地域医療福祉連携部長兼脳神経外科代表部長 日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医 認知症サポート医	昭和 60 年
中塚 雅雄	医療情報部長兼脳血管内治療部長 日本脳神経外科学会専門医 日本認知症学会専門医・指導医 日本脳卒中学会専門医・指導医 脳神経血管内治療学会専門医 認知症サポート医	平成 2 年
大島 望	脳神経外科部長	平成 20 年

2. 専門外来・主な取り組み

脳血管障害一般・神経外傷・認知症への対応

3. 診療実績

(単位：人、日)

		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
外来	延べ患者数	17,205	17,576	17,009
	一日平均患者数	70.5	72.3	70.0
入院	延べ患者数	17,720	15,078	13,094
	一日平均患者数	48.5	41.3	35.9
	平均在院日数	30.7	29.2	28.0
手術件数		43	35	41

4. 令和4年度クリニカルインディケータ（DPCデータより）

(1) 入院症例トップ3

傷病名	症例数
脳梗塞	123
頭蓋・頭蓋内損傷	58
脳血管障害	31

(2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
創傷処理	19
慢性硬膜下血腫洗浄・除去術（穿頭）、穿孔洗浄術	15
水頭症手術（シャント手術）	5
脳血管内手術（1箇所）	5
経皮的頸動脈ステント留置術	5

■ 皮膚科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
吉田 有友子	皮膚科医長 日本皮膚科学会専門医 緩和ケア研修会修了	平成 26 年

2. 専門外来・主な取り組み

- ・アトピー性皮膚炎、乾癬、掌蹠膿疱症、じんましん、天疱瘡・類天疱瘡、膠原病、皮膚良性・悪性腫瘍、皮膚潰瘍(褥瘡、熱傷も)、帯状疱疹、蜂窩織炎、多汗症(水道水によるイオントフォレーシス治療など)、円形脱毛症、男性型脱毛AGA〔自費治療：フィナステリド(ジェネリック薬)、ザガーロ®〕など
- ・光線治療に力を入れており、ナローバンドUVB、エキシマライトの2台にて、乾癬・アトピー性皮膚炎・掌蹠膿疱症、円形脱毛症などの治療を行っています。

3. 診療実績

(単位：人、日)

		令和2年度	令和3年度	令和4年度
外来	延べ患者数	12,322	13,857	12,465
	一日平均患者数	50.5	57.0	51.3
入院	延べ患者数	1,196	1,434	284
	一日平均患者数	3.3	3.9	0.8
	平均在院日数	13.1	15.3	7.9

4. 令和4年度クリニカルインディケータ (DPCデータより)

(1) 入院症例トップ3

傷病名	症例数
皮膚の悪性腫瘍(黒色腫以外)	18
帯状疱疹	8
膿皮症	4

(2)手術症例トップ3

傷病名	症例数
皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	19
全層植皮術	3
皮膚切開術	2

■ 泌尿器科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
本間 秀樹	泌尿器科代表部長 日本泌尿器科学会専門医	平成1年

2. 専門外来・主な取り組み

- ・内視鏡手術の実施

3. 診療実績

(単位：人、日)

		令和2年度	令和3年度	令和4年度
外来	延べ患者数	7,028	7,347	7,467
	一日平均患者数	28.8	30.2	30.7
入院	延べ患者数	435	368	520
	一日平均患者数	1.2	1.0	1.4
	平均在院日数	21.2	14.2	16.2

4. 令和4年度クリニカルインディケーター (DPC データより)

(1) 入院症例トップ3

傷病名	症例数
膀胱腫瘍	11
前立腺の悪性腫瘍	4
腎盂・尿管の悪性腫瘍	3
腎臓又は尿路の感染症	3
男性生殖器疾患	3

(2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術)(その他)	7
膀胱結石(異物)摘出術(経尿道的手術)	2
経皮的腹腔膿瘍ドレナージ術	1
経皮的尿管拡張術	1
経尿道的尿管ステント留置術	1

■ 産婦人科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
菱田 克己	第1産婦人科部長 日本産婦人科学会専門医 母体保護法指定医 日本医師会認定産業医	昭和48年
柴田 金光	第2産婦人科部長 日本産婦人科学会専門医・指導医 母体保護法指定医	昭和53年
十河 千恵	産婦人科医長 日本産婦人科学会専門医 緩和ケア講習会修了 母体保護法指定医 新生児蘇生法Aコース修了	平成24年

2. 専門外来・主な取り組み

- ・産科
- ・婦人科（不妊症・更年期障害・子宮内膜症など）

3. 診療実績

（単位：人、日、件）

		令和2年度	令和3年度	令和4年度
外来	延べ患者数	4,484	5,115	5,436
	一日平均患者数	18.4	21.0	22.4
入院	延べ患者数	772	907	652
	一日平均患者数	2.1	2.5	1.8
	平均在院日数	7.0	7.9	5.7
分娩件数		43	51	39
手術件数		38	48	42

4. 令和4年度クリニカルインディケーター（DPC データより）

(1) 入院症例トップ3

傷病名	症例数
子宮頸・体部の悪性腫瘍	15
分娩の異常	15
生殖器脱出症	7
胎児及び胎児付属物の異常	7

(2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
会陰（膣壁）裂創縫合術（分娩時）（筋層に及ぶ）	13
子宮頸部（膣部）切除術	10
子宮全摘術	7

■ 眼科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
吉田 直子	眼科部長 日本眼科学会専門医	平成3年
塚田 明世	眼科医長 日本眼科学会専門医 ※令和4年12月末退職	平成22年
小坂 拓也	日本眼科学会専門医 ※令和5年1月赴任	平成28年

2. 専門外来・主な取り組み

- ・ 白内障手術

3. 診療実績

(単位：人、日)

		令和2年度	令和3年度	令和4年度
外来	延べ患者数	9,602	10,238	10,765
	一日平均患者数	39.4	42.1	44.3
入院	延べ患者数	1,130	934	1,197
	一日平均患者数	3.1	2.6	3.3
	平均在院日数	3.8	4.8	3.9
白内障手術件数		319	275	321

4. 令和4年度クリニカルインディケータ（DPCデータより）

(1) 入院症例トップ3

傷病名	症例数
白内障、水晶体の疾患	229
緑内障	4
黄斑、後極変性	3

(2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
水晶体再建術(眼内レンズを挿入)(その他)	227
硝子体切除術	6
水晶体再建術(眼内レンズを挿入)(縫着レンズ挿入)	5
水晶体再建術(眼内レンズを挿入しない)	5

■ 耳鼻いんこう科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
堀部 兼孝	耳鼻いんこう科部長 日本耳鼻咽喉科学会専門医	平成 23 年

2. 専門外来・主な取り組み

慢性疾患外来（アレルギー性鼻炎・滲出性中耳炎など）： 火曜日・木曜日の午後

難聴・補聴器外来： 火曜日・木曜日の午前

3. 診療実績

（単位：人、日）

		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
外来	延べ患者数	9,090	7,913	9,994
	一日平均患者数	37.3	32.6	41.1
入院	延べ患者数	199	103	401
	一日平均患者数	0.5	0.3	1.1
	平均在院日数	15.0	12.3	5.5

4. 令和 4 年度クリニカルインディケータ（DPC データより）

（1）入院症例トップ 3

傷病名	症例数
扁桃、アデノイドの慢性疾患	10
睡眠時無呼吸	9
前庭機能障害	8

（2）手術症例トップ 3

手術名	症例数
口蓋扁桃手術（摘出）	10
内視鏡下鼻・副鼻腔手術 4 型（汎副鼻腔手術）	3
内視鏡下鼻・副鼻腔手術 3 型（選択的（複数洞）副鼻腔手術）	3
咽頭・声帯ポリープ切除術（直達咽頭鏡、又はファイバースコープ）	3

■ 麻酔科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
成宮なつみ	麻酔科部長 日本麻酔科学会専門医	平成19年

2. 専門外来・主な取り組み

- ・麻酔科診察
- ・救急ファーストタッチ

3. 診療実績

(単位：件)

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
全身麻酔	312	315	327
脊椎麻酔	158	109	161
局部麻酔	606	655	716
合計	1,076	1,079	1,204

部署別業務実績

【診療協同部】	
・ 診療放射線室	41
・ 臨床検査室	46
・ リハビリテーション室	50
・ 臨床工学室	53
・ 栄養管理室	60
【薬剤部】	63
【看護部】	66
【医療安全管理部】	73
【感染制御部】	75
【事務部】	77
【医療情報部】	83
【保健事業部】	84
【地域医療福祉連携部】	87

■ 診療協同部 — 診療放射線室

1. 部署目標

- ・医療の質の向上
- ・経営の安定化に向けた対策
- ・保健事業の充実
- ・働き方改革への対応
- ・医療情報システムの安定稼働

2. 活動内容と評価

(1) 「医療の質の向上」について

- ・「医療の質の向上」を目標として掲げ、人材育成に繋がる知識の共有化とレベルアップを図ることを目的とし、大きく3つの取り組みを実施しました。1つ目は診療放射線技師としての基本的なレベルを向上させるため、偶数月に診療放射線室内において勉強会を開催しました。内容は「MRIの安全性について」「外傷患者の体幹部CT撮影」「頭部CT Questionnaire」「肝区域・病状について」「救急医療と診療放射線技師」「虫垂炎について」を行い、全員が一定レベルの向上を図ることができたものと認識しております。2つ目はコロナ禍ということもあり、各自でオンラインセミナーを含めた勉強会に積極的に参加することにより知識の向上を図りました。各自が最低でも2回以上の勉強会に参加することにより、こちらも全員が一定レベルの向上を図ることができたものと評価しております。3つ目は施設認定などを積極的に更新し、それらを継続的に維持していく過程において、各自が技術や管理などのスキルを習得することにより、レベルの向上を図りました。「医療被ばく低減施設認定」に関しては書類審査合格後、訪問審査に向けてデータや資料等を整備し、審査機関からの連絡待ちとなっております。「マンモグラフィ検診 施設・画像認定」に関しては、次年度の更新に向けて各種データを取得・整理するなかで、各自がスキルの向上に努めました。医療の質を向上させるには、まずは個人の質の向上は必須であり、コロナ禍という状況においても、一定の成果は得られたものと評価しております。

(2) 「経営の安定化に向けた対策」について

- ・「経営の安定化に向けた対策」として、広報活動や周知活動を通じて検査件数の増加に努めました。具体的には、新たに「放射線ニュース」なるものを院内において発行し、様々な情報を周知することにより検査件数増加を図りました。また、地域連携室と協力して、地域の開業医さんに向けた広報紙を作成し、装置等の広報活動を実施することにより検査件数増加を図りました。これらの取り組みによる効果だけではありませんが、最終的には前年度対比で104.3%と、順調に検査数は増加しました。次年度以降も継続して取り組んでまいります。

(3) 「保健事業の充実」について

- ・医療収益による収益の増加が、今後は取り巻く環境等による影響により大きく期待できない状況下において、保健事業における安定的な収益の確保は何よりも重要と考え、「保健事業の充実」を目標として掲げました。具体的には、診療放射線室において積極的に超音波検査に対応できる診療放射線技師を養成し、院内における超音波検査体勢の充実に貢献することにより、保健事業全体の底上げが図れるものと考え、臨床検査室のご協力を得ながら研修を行ってきました。コロナ禍による影響、並びに急な人事異動による影響などにより、年度内に新たな担当技師を養成することはできませんでしたが、着実に研修は進捗しております。次年度内には2名の技師を新たに養成し、令和6年度以降は3名の診療放射線技師が超音波検査に従事できるよう、引き続き研修を継続してまいります。

(4) 「働き方改革への対応」について

- ・医師の働き方改革を推進するため、医師から診療放射線技師へのタスク・シフティングにより、診療放射線技師の業務を拡大するための法律が、令和3年10月1日に施行されました。それに伴い、法律に対応するための告示研修が令和3年7月31日より開始されており、診療放射線室としても法律を遵守するとともに、タスク・シフティングを推進していくためには、まずは告示研修を全員が終えることが何より必要であり、各自が研修に取り組みました。年度内において基礎研修は全員が終了し、実技研修は9名中3名が終了しております。次年度中に全員がすべての研修を終了させ、当院における診療放射線技師によるタスク・シフティングの必要性を、検討していきたいと考えております。

(5) 「医療情報システムの安定稼働」について

- ・令和5年度における電子カルテ・部門システムの更新に際し、当院診療放射線室に相応しいシステムを構築するため、必要な種々の情報・知識を取得し、医療情報室と協議を重ねてきました。年度内において大きな方向性は決定し、計画通り順調に進捗しております。

3. 業務実績

(1) 検査件数

令和4年度 診療放射線室 検査件数

全検査数

項目	令和4年度合計	令和3年度合計	前年度比較
一般撮影	22,818	21,541	105.9%
マンモ	1,731	1,634	105.9%
TV検査	3,310	3,269	101.3%
血管検査	159	144	110.4%
CT検査	8,848	8,717	101.5%
MRI検査	4,913	5,032	97.6%
骨塩定量	763	644	118.5%
画像処理	1,967	1,695	116.0%
術中透視	2	3	67.0%
合計	44,511	42,679	104.3%

健診検査件数（再掲）

項目	令和4年度合計	令和3年度合計	前年度比較
胸部	3,208	3,084	104.0%
マンモ	955	880	108.5%
胃透視	1,257	1,265	99.4%
胃内視鏡	998	996	100.2%
CT検査	268	248	108.1%
MRI検査	413	419	98.6%
骨塩定量	164	160	102.5%
合計	6,265	6,056	103.5%

健診合計件数には胃内視鏡件数は含まず

4. その他

(1) 人員体制について（令和5年3月31日現在）

診療放射線技師	9名（男性6名、女性3名）
放射線（1Bブロック）看護師	5名
SPD（午前）	1名
受付事務員（1Bブロック）	2名（午後1名）

(2) 画像診断関連機器一覧 令和4年度

撮影室	室番号	装置名(用途)	機種名	メーカー	取得年月日
一般撮影室 6	6	撮影装置	UD150L-40(50KW)	島津	2009/7/30
		画像処理装置	Console Advance	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE1:立位)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE2:臥位)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C47 (SE7:半切)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C12 (SE10:四つ切)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		CR読取装置	FCR PRIMA(カセットリーダー)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		撮影室内用画像表示端末	i-Pad mini	リオンテックセフメディカル	2018/10/15
一般撮影室 7	7	撮影装置	UD150L-40(50KW)	島津	2009/7/30
		画像処理装置	Console Advance	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE3立位)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE4:臥位)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C47 (SE8:半切)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C12 (SE11:四つ切)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		撮影室内用画像表示端末	i-Pad mini	リオンテックセフメディカル	2018/10/15
マンモ・ 骨塩定量 撮影室 8	8	撮影装置	MAMMOMAT1000	シーメンス	2009/7/30
		画像処理装置	Console Advance	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		CR読取装置	FCR PROPECT CS(カセットリーダー)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
	8	撮影装置	Dichroma Scan DCS-600EXV	日立アロカ	2009/7/30
健康管理支 援センター (胸部撮影)		撮影装置	RADIOTEX CH-200	島津	2009/7/30
		画像処理装置	Console Advance	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE5)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		撮影室内用画像表示端末	i-Pad mini	リオンテックセフメディカル	2018/9/25
病棟用		回診型撮影装置	MobileDalt Evolution MX8VersionK	島津	2021/3/17
		FPD撮影装置	AeroDR 1717 FINE	コニカミノルタ	2021/3/17
		FPD用充電スタンド	AeroDR クレードル2	コニカミノルタ	2021/3/17
手術室		回診型撮影装置	MobileDalt Evolution MX8VersionK	島津	2021/3/17
		FPD撮影装置	AeroDR 1717 FINE	コニカミノルタ	2021/3/17
		FPD用充電スタンド	AeroDR クレードル2	コニカミノルタ	2021/3/17
		OPE用透視装置	SIREMOBIL Compact L	シーメンス	2007/8/10
		OPE用透視装置	OPESCOPE ACTENO	島津	2022/3/1
TV室2	2	撮影装置	ZEXIRA 1314 (F.P.D.)	キャノン	2021/10/1
		撮影制御装置	DREX-ZX80	キャノン	2021/10/1
TV室9	9	撮影装置	ZEXIRA FPD Version (F.P.D.)	キャノン	2009/7/30
		撮影制御装置	HDR-1000A	キャノン	2009/7/30

撮影室	室番号	装置名(用途)	機種名	メーカー	取得年月日
CT室	5	撮影装置	Aquillion Prime SP TSX-303B	キャノン	2019/5/7
		造影剤自動注入器	Dual Shot GX7	根本杏林堂	2019/5/7
		ワークステーション	ZIOSTATION2 TypeH	アミン	2019/5/7
		ワークステーション	ZIOSTATION2Classic	アミン	2012/7/21
		テラステーション	terastation Pro	バッファロー	2009/7/7
		Xe-CT測定装置	コールドキセノンガス吸入装置AZ-727N	安西	2021/8/11
		回診型撮影装置	MobileArtEvolution	島津	2011/4/10(新古車)
		画像処理装置	Console Advance (モバイルタイプ)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE6)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C12 (SE12:四つ切)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
MRI室	4	撮影装置	Ingenia1.5T	フィリップス	2015/9/25
		ワークステーション	バーチャルプレイス風神RM-01123791	A Z E	2015/9/25
		生体情報モニタ	Invivo Essentil	コニカミノルタ	2015/9/25
		造影剤自動注入器	ソニックショット7	根本杏林堂	2015/9/25
血管撮影室	3	撮影装置	AXIOM Artis zee BA	シーメンス	2022/1/18
		ポリグラフ	RMC-4000M	日本光電	2008/8/4
		造影剤自動注入器	プレスプロ150	根本杏林堂	2009/7/30
		ワークステーション	syngoX-Workplace	シーメンス	2022/1/18
一般撮影 操作室		film読み取り装置	AOC Scan1.5	アレイ	2017/3/21
		ドライイメージャー	DRY PIX EDGE	富士フイルムメディカル	2018/9/18
		画像検像装置	iRad-QA	インフォコム	2017/3/21
感染症病棟		回診型撮影装置	MobileArtEvolution	島津	2010/6/1
		画像処理装置	Console Advance (モバイルタイプ)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C47 (SE9:半切)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
篠島診療所		診断用X線装置	エクシープロMバック	島津	2011/11/1
		画像処理装置	画像診断WS Unitea α	コニカミノルタ	2021/3/10
		FPD撮影装置	AeroDR 1317 Premium	コニカミノルタ	2021/3/10
		FPD用充電スタンド	AeroDR クレードル2	コニカミノルタ	2021/3/10
		診断用モニター	EV2456Bk	EIZO	2021/3/10

■ 診療協同部－臨床検査室

1. 部署目

- ・検査室の質向上に向けた外部精度管理調査への体制作り
- ・コロナ関連検査への対応
- ・省力化の追求とコスト削減
- ・有休を取得しやすい環境づくり、時間外労働の縮小、学会等での発表
- ・超音波検査担当者の育成

2. 活動内容と評価

(1) 検査室の質向上に向けた外部精度管理調査への体制作りについて

- ・検査室の質を向上する目的で、検査標準作業書の再作成に取り組んだ。新人から活用でき、誰もが標準的に検査できる作業書作成を現在も進行中である。外部精度管理調査においては、まず常日頃からの精度管理の在り方を再度検討した。内部精度管理方法や機器メンテナンスについて更に言及する必要がある。

(2) コロナ関連検査への対応について

- ・新型コロナウイルスの急激な検査対象者増に対し、大量の検体でも迅速に結果が提供できるよう、試薬の確保や早朝からの検査対応、大型機器を使った検査などで十分に発揮できた。日直時はもちろん、当直帯や休日にも 24 時間体制で対応できた。

(3) 省力化の追求とコスト削減について

- ・生化学免疫自動分析装置の増設が完了し、効率的な運用を行う事が出来た。コスト削減について、外注項目の価格交渉を行い検討まで終了しているが切り替えが未達であった。外注項目の院内化も視野に入れ、来年度も継続して計画的に進めていきたい。

(4) 有休を取得しやすい環境づくり、時間外労働の縮小、学会等での発表について

- ・有休休暇取得は徐々に増加してきている。声掛けにより、時間外労働の削減も行う事が出来たと思われる。今年は 2 件の学会発表をすることができた。職員個人のモチベーションを高め、今後も維持できるようにしていきたい。

(5) 超音波検査担当者の育成について

- ・超音波検査枠の拡充や健診センターの充実を目標に、超音波検査担当者の育成に取り組んだ。定期的に超音波検査の勉強会を開催する事は出来たが、他部署の配属でもあり結果的に 1 名の教育しか十分に行えなかった。来年度も継続し、自部署での育成を行いたい。

3. 業務実績

稼働件数		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		件数	前年対比	件数	前年対比	件数	前年対比
一般検査	尿	35,087	93.0	35,005	99.8	37,941	108.4
	便	4,404	95.2	4,826	109.6	4,973	103.0
	体液	408	76.3	503	123.3	341	67.8
血液検査	血液	106,442	100.2	111,978	105.2	109,480	97.8
輸血検査	輸血	2,768	110.5	2,628	94.9	2,610	99.3
臨床化学	化学1	795,189	99.9	822,000	103.4	811,492	98.7
	化学2	33,785	100.0	37,338	110.5	40,344	108.1
	血液ガス	985	139.9	1,061	107.7	1,120	105.6
	負荷試験	9	100.0	12	133.3	20	166.7
微生物検査	一般細菌	8,119	77.9	9,988	123.0	8,153	81.6
	微生物核酸検査	1,358	—	2,951	—	6,064	205.5
	その他	817	116.7	721	88.2	710	98.5
免疫検査	免疫	50,622	100.3	55,180	109.0	65,739	119.1
病理	病理組織	1,561	107.3	1,646	105.4	1,616	98.2
	細胞診	2,673	95.5	1,825	68.3	1,867	102.3
生理検査	肺機能	3,129	73.9	3,539	113.1	3,801	107.4
	心電図	8,920	96.6	9,759	109.4	9,658	99.0
	超音波	4,885	99.7	5,022	102.8	5,054	100.6
	脳波	145	87.3	138	95.2	160	115.9
	その他	3,450	87.1	3,903	113.1	4,275	109.5
その他	病理解剖	0	—	2	—	0	—
	採血	27,761	98.7	27,842	100.3	27,974	100.5
	輸血製剤管理	956	110.6	943	98.6	1,421	150.7
	その他(DM指導等)	73	97.3	125	171.2	34	27.2
		1,093,546	99.4	1,138,935	104.2	1,144,847	100.5

稼働点数		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		点数	前年対比	点数	前年対比	点数	前年対比
一般検査	尿	1,197,055	88.0	1,115,417	93.2	1,223,742	109.7
	便	165,179	95.0	178,618	108.1	203,905	114.2
	体液	6,027	66.9	7,916	131.3	4,808	60.7
血液検査	血液	2,797,264	103.7	2,984,456	106.7	2,887,967	96.8
輸血検査	輸血	145,274	106.0	135,480	93.3	149,957	110.7
臨床化学	化学1	10,029,170	99.5	10,678,520	106.5	10,641,649	99.7
	化学2	4,405,187	97.6	4,818,441	109.4	5,055,093	104.9
	血液ガス	136,915	138.9	147,479	107.7	151,200	102.5
	負荷試験	1,800	100.0	2,400	133.3	4,000	166.7
微生物検査	一般細菌	881,267	74.1	1,122,913	127.4	1,184,664	105.5
	微生物核酸検査	1,832,360	—	2,962,290	—	4,244,800	143.3
	その他	0	—	0	—	0	—
免疫検査	免疫	3,889,372	140.8	6,386,840	164.2	11,024,836	172.6
病理	病理組織	1,627,800	108.6	1,663,010	102.2	1,640,480	98.6
	細胞診	413,574	91.2	315,505	76.3	306,240	97.1
生理検査	肺機能	299,220	74.1	338,300	113.1	364,370	107.7
	心電図	1,420,560	100.4	1,532,530	107.9	1,524,830	99.5
	超音波	2,405,350	100.4	2,480,620	103.1	2,487,660	100.3
	脳波	123,290	88.4	126,060	102.2	154,280	122.4
	その他	563,260	81.9	655,660	116.4	807,440	123.1
その他	病理解剖	0	—	50,000	—	0	—
	採血	971,635	124.2	974,470	100.3	1,035,038	106.2
	輸血製剤管理	0	—	0	—	0	—
	その他(CGM)	21,700	75.6	18,900	87.1	12,600	66.7
稼働点数合計		33,333,259	108.0	38,695,825	116.1	45,109,559	116.6

判断料 件数		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		件数	前年対比	件数	前年対比	件数	前年対比
検査判断料	尿・糞便等検査	9,228	93.8	8,801	95.4	10,137	115.2
	血液学的検査	28,095	100.0	28,512	101.5	28,465	99.8
	生化学的検査（Ⅰ）	27,978	100.2	28,471	101.8	28,503	100.1
	生化学的検査（Ⅱ）	9,664	99.7	10,624	109.9	11,591	109.1
	免疫学的検査	14,493	100.8	19,250	132.8	24,550	127.5
	微生物学的検査	3,339	148.6	5,174	155.0	4,321	83.5
	病理学的検査	918	100.3	999	108.8	1,068	106.9
	呼吸機能検査	407	114.3	464	114.0	590	127.2
	脳波検査	58	59.2	74	127.6	109	147.3
	神経・筋検査	30	100.0	35	116.7	28	80.0
検査判断総件数		94,210	100.7	102,404	108.7	109,362	106.8

その他加算 件数		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		件数	前年対比	件数	前年対比	件数	前年対比
病理診断料		1,325	110.5	1,397	105.4	1,429	102.3
細胞診断料		604	107.7	556	92.1	498	89.6
検体検査管理加算Ⅰ		32,918	93.2	35,203	106.9	42,334	120.3
検体検査管理加算Ⅱ		348	109.8	1,558	447.7	1,107	71.1
パルスドプラ法加算		194	113.5	216	111.3	226	104.6
乳幼児加算		82	96.5	181	220.7	201	111.0
時間外緊急院内検査加算		913	62.3	1,010	110.6	1,675	165.8
生化学入院時初回加算		390	214.3	550	141.0	499	90.7
外来迅速加算		33,534	98.5	34,277	102.2	33,960	99.1
輸血管理料Ⅰ		199	99.5	212	106.5	213	100.5
輸血適正使用加算Ⅰ		199	99.5	212	106.5	213	100.5
合計 件数		70,706	95.9	75,372	106.6	82,355	109.3

判断料 点数		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		点数	前年対比	点数	前年対比	点数	前年対比
検査判断料	尿・糞便等検査	313,752	93.8	299,234	95.4	344,658	115.2
	血液学的検査	3,511,875	100.0	3,564,000	101.5	3,558,125	99.8
	生化学的検査（Ⅰ）	4,028,832	100.2	4,099,824	101.8	4,104,432	100.1
	生化学的検査（Ⅱ）	1,391,616	99.7	1,529,856	109.9	1,669,104	109.1
	免疫学的検査	2,086,992	100.8	2,772,000	132.8	3,535,200	127.5
	微生物学的検査	500,850	148.6	776,100	155.0	648,150	83.5
	病理学的検査	137,700	100.3	149,850	108.8	138,840	92.7
	呼吸機能検査	56,980	114.3	64,960	114.0	82,600	127.2
	脳波検査	10,440	59.2	13,320	127.6	19,620	147.3
	神経・筋検査	5,400	100.0	6,300	116.7	5,040	80.0
検査判断総点数		12,044,437	101.4	13,275,444	110.2	14,105,769	106.3

その他加算 点数	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	点数	前年対比	点数	前年対比	点数	前年対比
病理診断料	596,250	110.5	628,650	105.4	743,080	118.2
細胞診断料	120,800	107.7	111,200	92.1	99,600	89.6
検体検査管理加算Ⅰ	1,316,720	93.2	1,397,680	106.1	1,693,360	121.2
検体検査管理加算Ⅱ	34,800	109.8	155,800	447.7	110,700	71.1
パルスドプラ法加算	38,800	113.5	43,200	111.3	45,200	104.6
乳幼児加算	2,050	96.5	4,525	220.7	6,030	133.3
時間外緊急院内検査加算	182,600	62.3	202,000	110.6	335,000	165.8
生化学入院時初回加算	7,800	214.3	11,000	141.0	9,980	90.7
外来迅速加算	1,475,270	108.5	1,500,240	101.7	1,486,590	99.1
輸血管理料Ⅰ	43,780	99.5	46,640	106.5	46,860	100.5
輸血適正使用加算	23,880	99.5	25,440	106.5	25,560	100.5
合計 点数	3,842,750	99.6	4,126,375	107.4	4,601,960	111.5

検査委託		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		件数	前年対比	件数	前年対比	件数	前年対比
委託件数	保険収載件数	15,760	112.4	18,857	119.7	20,761	110.1
	未保険収載件数	725	151.0	1,131	156.0	1,115	98.6
	管理料件数	189	—	172	—	174	—
総件数		16,674	113.2	20,160	120.9	22,050	109.4
委託支払額	保険項目支払小計	15,920,719	109.3	21,341,857	134.1	20,983,098	98.3
	未保険項目支払計	1,930,125	124.0	3,856,416	199.8	3,805,580	98.7
	管理料支払計	180,173	—	155,528	—	158,158	—
総支払い額		18,031,017	110.2	25,353,801	140.6	24,946,836	98.4
委託検査収入	総保険点数請求額	33,135,380	109.7	41,683,310	125.8	45,934,660	110.2
	利益差	15,104,363	109.1	16,329,509	108.1	26,859,116	164.5
消費額	薬品費	66,305,369	116.1	72,908,086	110.0	76,626,901	105.1
	医療材料費	5,560,218	155.8	8,254,098	148.4	8,436,871	102.2
薬品費材料費合計		71,865,587	118.5	81,162,184	112.9	85,063,772	104.8

令和4年度まとめ

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の第7波および第8波が猛威を振るい検査数や感染者数が激増した年度であった。そのため、薬品費、医療材料費あわせて400万円ほどの更なる増額となったが、診療報酬ではコロナ遺伝子検査（微生物核酸検査）で約1,200万円、抗原検査（免疫検査）等では約4,600万円の増収に繋がった。他検査の稼働件数、稼働点数は、細菌検査や病理検査で若干減少も見られたが、検査判断料件数・点数、加算件数・点数などは、増加が見られた。検査委託については件数、支払額は増加しているが、総保険点数請求額が増加し利益差も大幅に増収が見られた。

■ 診療協同部ーリハビリテーション室

1. 部門（部署）目標

- ・診療体制の充実：リハビリテーション室内のチーム体制整備と入院・外来・訪問・通所リハビリ業務の充実
- ・経営の安定化に向けた対策：施設基準の遵守と付加価値増加の対策
- ・医療情報システムの安定稼働：次期医療システムと部門システムのオペレーションの充実
- ・訪問看護ステーションの充実：訪問リハビリ業務の整備と充実
- ・医療の質の向上：定期的なカンファレンス・症例検討の充実
- ・医療安全管理の充実：個人情報漏洩阻止と重大なリスク予防の対策
- ・行政との連携体制の充実：介護予防事業・認知症予防事業・小児支援事業への対応の充実

2. 活動内容と評価

- (1) リハビリテーション室内のチーム体制整備と入院・外来・訪問・通所リハビリ業務の充実について
 - ・体制整備に向けてチーム内・チーム間での役割や担当を変更し、急性期から維持期まで対応出来るようにした。次年度も産休や育休者、新入職員など職員構成が変化する事が予測され、病院機能に対応できるリハビリテーション室の体制作りや変更を実施していく。
- (2) 施設基準の遵守と付加価値増加の対策について
 - ・地域包括ケア病棟で実施単位数を平均2単位以上行い、計画書算定割合は9割以上を行えた。次年度も引き続き取り組み、併せて退院時指導料の算定数の向上を目指していく。
- (3) 次期医療システムと部門システムのオペレーションの充実について
 - ・次期電子カルテ更新に伴い当部門システムは現在運用中のシステム（タックリハビリテーション支援システム）を継続運用する方針とした。予約管理や日報・月報作成補助が行え、地域包括支援病棟の実施単位数管理も行える。評価表作成機能を利用し業務改善も行い、次年度以降も業務の効率化を目指す。

(4) 訪問リハビリ業務の整備と充実について

- ・一般病棟入院患者、地域包括ケア病棟患者や外来患者などのリハビリ業務と兼務しながら訪問リハビリ業務も実施している。訪問リハビリ予約枠内にて担当者数を適性化し、急なスタッフ欠勤にも対応している。タブレット端末が導入、増設され情報共有や待機時間に事務作業が効率的に行えるようになった。次年度も引き続き担当者数については検討を行う。

(5) 定期的なカンファレンス・症例検討の充実について

- ・新規のリハビリ依頼や依頼後のリハビリ状況をチーム内で情報共有したり、方向性などのアドバイスや確認を行っている。部門毎、担当者間でもカンファレンスの実施と症例検討を行った。このような仕組みは継続的に行っており、次年度も同様に行う。

(6) 個人情報漏洩阻止と重大なリスク予防の対策について

- ・業務としてリハビリ実施計画書の説明やFAX送信など個人情報を取り扱うため、行動規範ブックや手順書を使用して会議の際に読み合わせの実施を行った。コンプライアンス事例は発生しなかったが、来年度も引き続き個人情報の取り扱いに留意する。

(7) 介護予防事業・認知症予防事業・小児支援事業への対応の充実について

- ・地域行政等主催事業の依頼に対応するため、予定担当者を依頼先毎に決め、実施できるようにした。地域主催の事業は当院のアピールにもなる事業と考え、次年度も対応できる体制を継続する。

3. 業務実績

リハビリテーション室 全期（令和4年度）・・・資料1

リハビリテーション室 全期

資料1

		理学療法	作業療法	言語聴覚療法	合計単位数 ※
実施合計 (単位数換算値)	医療 外来	4,230	4,088	492	8,810
	前年	4,456	4,231	854	9,541
	対前年比	94.9%	96.6%	57.6%	92.3%
	医療 入院	41,480	22,254	4,912	68,646
	前年	42,572	26,860	5,578	75,010
	対前年比	97.4%	82.9%	88.1%	91.5%
	摂食機能療法			104	155.3
	前年			128	192.0
	対前年比			80.9%	80.9%
	短時間通所リハビリ	577	65	81	2169
	前年	661	105	40	2418
	対前年比	87.3%	61.9%	202.5%	89.7%
	合計単位数 ※	47,441	26,537	5,647	83,963
	前年	49,011	31,406	6,552	91,805
対前年比	96.8%	84.5%	86.2%	91.5%	
職員1人あたり/日		15.6	15.8	12.7	

※「介護 入院」は「回数」を「疾患別リハビリ」の単位数へ換算

※「摂食機能療法」は1.5単位/件に、「短時間通所リハビリ」は3単位/件に置き換えています。

		新患者数	延べ患者数	総単位数	実施単位/患者
患者数 と 実施単位数	医療 外来	494	6,767	8,810	1.30
	前年	470	7,265	9,541	1.31
	対前年比	105.1%	93.1%	92.3%	99.1%
	医療 入院	1,434	39,584	68,646	1.73
	前年	1,472	43,380	74,653	1.72
	対前年比	97.4%	91.2%	92.0%	100.8%
	計	1,928	46,351	77,456	3.04
	前年	1,942	50,645	84,194	3.03
対前年比	99.3%	91.5%	92.0%	100.1%	

		理学療法	作業療法	言語聴覚療法	合計
医療 リハ料別	脳血管	8,221	8,801	3,010	20,032
	廃用	7,672	3,774	516	11,962
	運動器	14,208	6,080		20,288
	呼吸器	2,554	1,363	902	4,819
	がんリハ	1,094	300	46	1,440

		理学療法	作業療法	言語聴覚療法	合計
訪問リハ件数		932	343	29	1,304
前年実数		975	453	47	1,475

地域包括ケア病棟					
平均入院患者数		平均リハビリ対象者数		患者1名1日あたりの実施単位数	
2階	5階	2階	5階	2階	5階
17.4	47.8	11.7	33.4	2.2	2.1

■ 診療協同部－臨床工学室

1. 部署目標

- 1) 安全・安心な医療機器使用環境の整備
- 2) 適正な医療機器使用の醸成
- 3) レポートおよび医療安全情報を活用した医療安全の向上
- 4) 増収および経費削減の検討・実施
- 5) タスクシフト・タスクシェアを通じた業務改革

2. 活動内容と評価

(1) 安全・安心な医療機器使用環境の整備について

- ・臨床工学室が管理する医療機器の定期点検年間予定表を作成し、予定表に基づいて定期点検を実施した。
- ・臨床工学技士による医療機器点検実施件数（始業点検・定期点検含む）は、3944 件（前年対比：104%）であった。
- ・医療機器点検実施件数（始業点検・定期点検含む）の内、臨床工学技士が実施した定期点検（医療機器の部品交換や精度確認等の詳細な点検）については、人工呼吸器 8 台、麻酔器 4 台、除細動器 7 台、閉鎖式保育器 2 台、電気メス 10 台、TCI シリンジポンプ 2 台、小型シリンジポンプ 1 台、輸液ポンプ 51 台、シリンジポンプ 25 台、低圧持続吸引器 8 台、経管経腸栄養ポンプ 15 台、MRI 対応パルスオキシメータ 1 台、AED12 台であった。
- ・メーカー依頼の定期点検実施医療機器は、人工呼吸器 3 台、搬送用人工呼吸器 2 台、麻酔器 1 台、血液浄化装置 2 台、閉鎖式保育器 1 台、臨床用ポリグラフ 1 台であった。
- ・血液浄化療法の依頼を受けた際、迅速な対応が行えるように、医療機器や医療材料の在庫を把握し、迅速な対応を行った。実施した血液浄化療法業務は、GCAP（顆粒球吸着療法）5 回（前年対比：33.3%）、PMX-DHP（エンドトキシン吸着）5 回（前年対比：250%）、CART（胸水・腹水濾過濃縮再静注療法）10 回（前年対比：32.3%）、PE（単純血漿交換）1 回（前年：0 件）であった。

(2) 適正な医療機器使用の醸成

- ・医療機器の安全使用に係る勉強会を適宜実施した。新たな試みとして、在宅用 NPPV（エアカーブ TJ）の取り扱い動画を作成し、動画視聴による研修会を実施した。

別添資料 1（院内勉強会実施一覧 令和 04 年度）参照

(3) レポートおよび医療安全情報を活用した医療安全の向上

- ・臨床工学室長会議や医療安全対策委員会でインシデントレポートの報告を受けた内容を部署内で共有を行った。次年度は、情報共有のみでなく医療機器に関するインシデント事例を他職種にも周知を行い、医療安全の向上に努めたい。

(4) 増収および経費削減の検討・実施

- ・医療機器の適正台数・医療材料の適正在庫数を検討する。

血液浄化装置の更新に伴い、前機種で使用していた血液浄化回路（PMX-DHP 用、CHDF 用、PE 用）の在庫を無くした。GCAP（顆粒球吸着療法）においては、更新機種では実施困難の為、GCAP（顆粒球吸着療法）専用機器（アダモニタ）のレンタル運用に変更した。このことに伴い、アダカラムと血液浄化回路の在庫を無くし、アダモニタをレンタルする際に、発注することとし、院内在庫数の適正化を図ることができた。

- ・ペースメーカ遠隔モニタリング加算件数増加に向け、ペースメーカ新規植込み・交換患者への遠隔モニタリング導入率を 100%とする為、対象患者の導入説明を行った。対象患者 7 名に対して全員の遠隔モニタリング導入を行った。
- ・メーカー依頼の定期点検・修理が臨床工学技士により実施可能か検討した。人工呼吸器（ハミルトン C1）で臨床工学技士による定期点検実施が可能であった為、2022 年 8 月にメーカー主催のメンテナンス講習会に参加した。結果、4 台の人工呼吸器の定期点検を臨床工学技士により実施した。

(5) タスクシフト・タスクシェアを通じた業務改革

- ・臨床工学技士法が改正され、行為の追加/業務の範囲が広がりました。このことに伴い、新たな業務として、外科内視鏡手術時のスコープオペレータ業務を開始した。2022 年 8 月から業務を開始し 11 件のスコープオペレータを行った。

3. 業務実績

(1) 臨床工学室 年度別業務件数 (平成30年度～令和4年度)

臨床工学室 年度別業務件数報告書

心臓カテーテル関連業務

業務分類	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
CAG	7	7	2	21	20
PCI	1	0	0	4	4

ペースメーカー関連業務

業務分類	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ペースメーカーチェック	282	388	490	634	727
ペースメーカー新規	3	5	4	7	6
ペースメーカー交換	1	1	6	8	4
ペースメーカー体外式	3	1	1	9	6
ペースメーカー生活指導	2	7	10	13	11

血液浄化療法関連業務

業務分類	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
GCAP	0	2	0	15	5
エンドトキシン吸着	0	0	4	2	5
CART(胸水・腹水濾過濃縮)	7	19	18	31	10
CHDF(日数)	8	0	2	0	0
HD・HF・HDF	0	0	0	0	0
PE(血漿交換)	0	0	0	0	1

手術協助関連業務

業務分類	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
経皮的ラジオ波焼灼療法	2	5	1	0	2
手術立ち会い	12	5	6	10	15
スコープオペレータ				4	11

人工呼吸器関連業務

業務分類	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人工呼吸器使用中点検	1551	1610	1280	654	386
人工呼吸器回路交換	61	64	77	53	34
人工鼻フィルター交換	7	6	14	6	4
バクテリアフィルター交換	695	669	219	103	64
カテーテルマウント交換	264	291	227	118	67
NIPPV対応	1	0	0	6	12
CPAP説明	22	9	11	20	46
新規導入(NPPV含む)	54	30	49	45	53

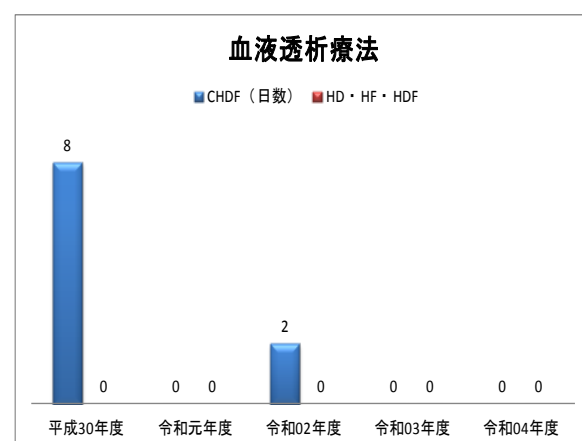
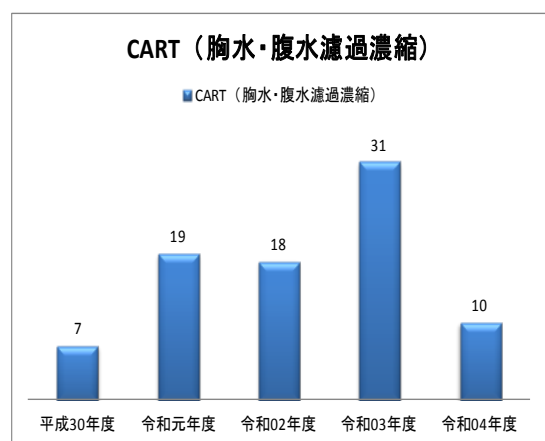
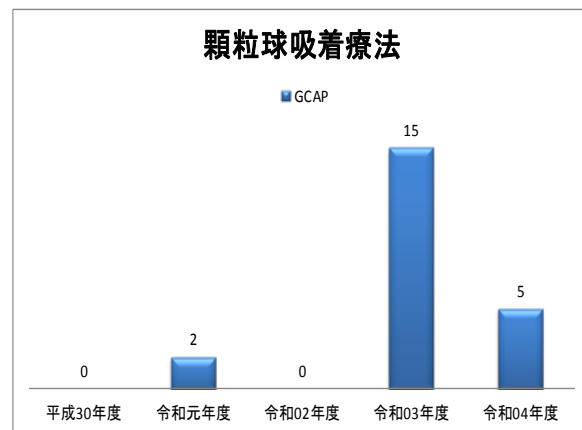
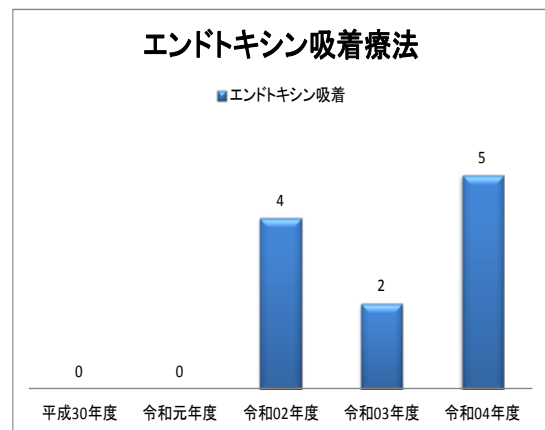
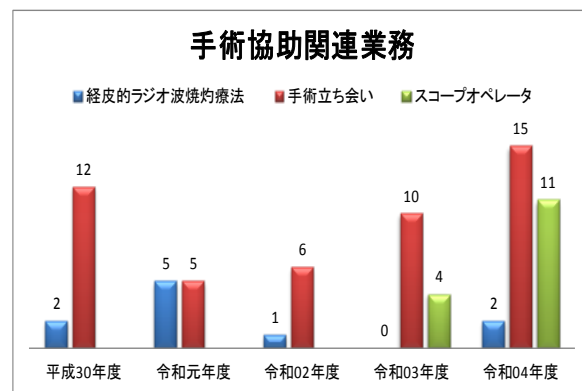
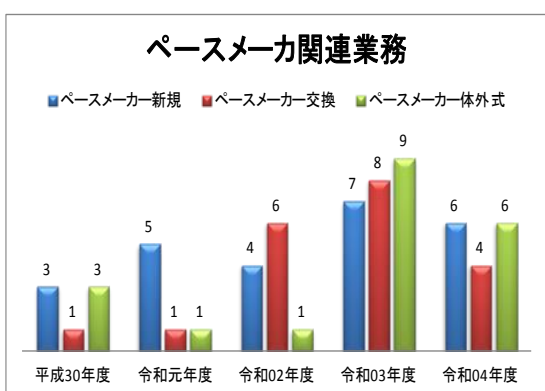
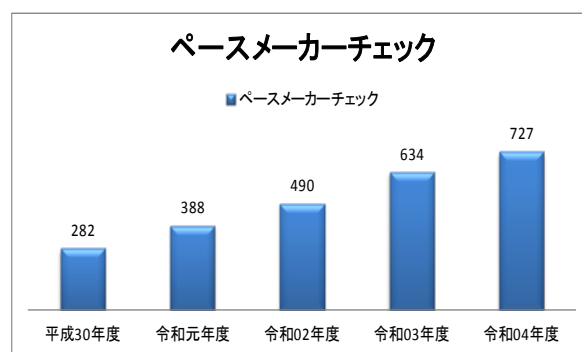
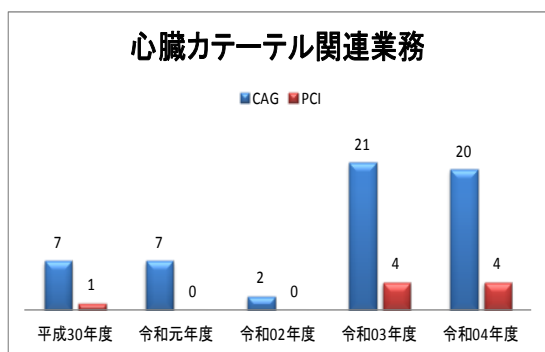
MEセンター関連業務

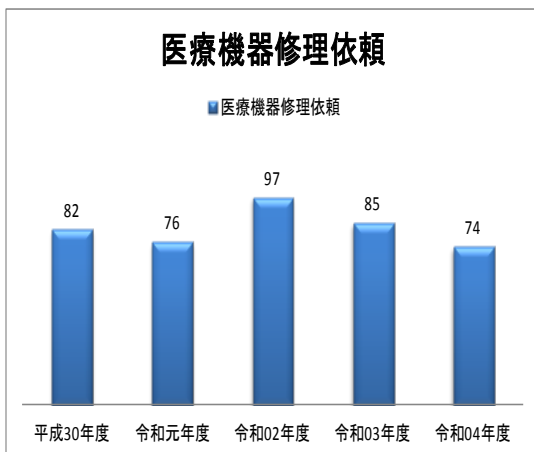
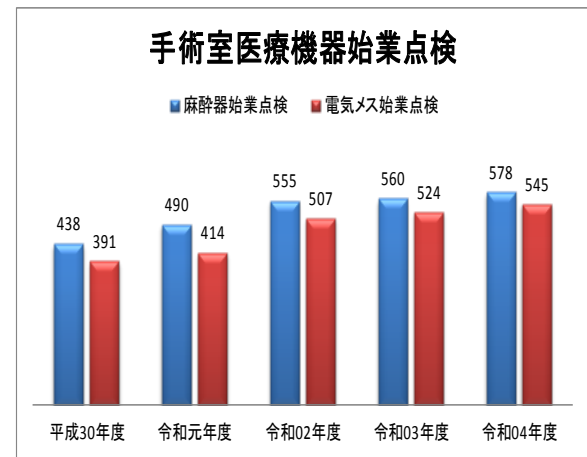
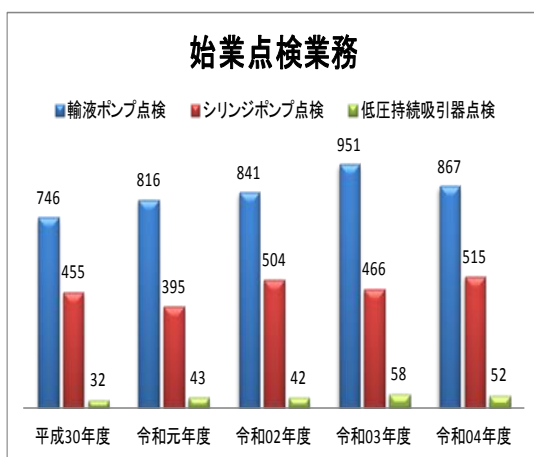
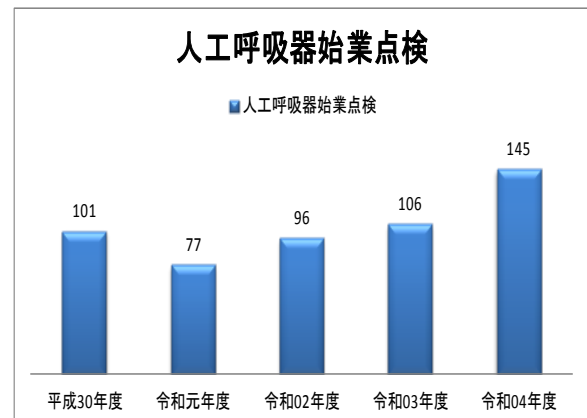
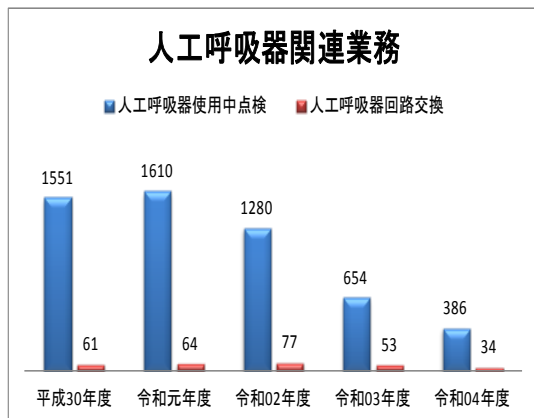
業務分類	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
麻酔器始業点検	438	490	555	560	578
電気メス始業点検	391	414	507	524	545
人工呼吸器始業点検	101	77	96	106	145
IABP点検	11	12	12	12	2
除細動器点検	83	83	85	89	89
閉鎖式保育器点検	30	30	40	35	36
AED点検	122	140	130	129	116
輸液ポンプ点検	746	816	841	951	867
シリンジポンプ点検	455	395	504	466	515
低圧持続吸引器点検	32	43	42	58	52
医療機器修理依頼	82	76	97	85	74

緊急対応業務

業務分類	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
夜間・休日 対応	17	2	15	14	13

(2) 臨床工学室 年度別業務件数グラフ (平成30年度～令和04年度)





院内勉強会実施一覧（令和04年度）

別添資料1
臨床工学室

【勉強会内容・日程・場所】

日程・場所	勉強会	内容	講師
令和04年04月07日 手術室	麻酔器勉強会	<ul style="list-style-type: none"> 麻酔器の概要と操作方法について 麻酔器の始業点検方法について 	臨床工学技士 大倉
令和04年05月02日 新人看護師研修	AED・除細動器勉強会	<ul style="list-style-type: none"> AED・除細動器の操作手順について AED・除細動器の使用上の注意点について 	臨床工学技士 大倉
令和04年05月06日 新人看護師研修	輸液ポンプ・シリンジポンプ勉強会	<ul style="list-style-type: none"> 輸液ポンプ・シリンジポンプの使用方法 輸液ポンプ・シリンジポンプの操作手順 輸液ポンプ・シリンジポンプのアラームと対応 	臨床工学技士 大倉
令和04年05月06日 手術室	ビデオダビングボックス勉強会	<ul style="list-style-type: none"> ビデオダビングボックスの操作手順 フォーマット方法について 	臨床工学技士 大倉
令和04年05月18日 新人看護師研修	経管経腸栄養ポンプ勉強会	<ul style="list-style-type: none"> 経管経腸栄養ポンプの使用方法について 経管経腸栄養ポンプの操作手順について 	臨床工学技士 大倉
令和04年05月18日 新人看護師研修	人工呼吸器勉強会	<ul style="list-style-type: none"> 人工呼吸器の基礎について 人工呼吸器の基本設定と換気モード 人工呼吸器のアラーム対応について 人工呼吸器管理について 	臨床工学技士 大倉
令和04年05月26日 MEセンター	血液浄化装置（TR-2020）勉強会	<ul style="list-style-type: none"> PE（血漿交換）用血液回路のセッティング 血液回路のプライミング方法 その他機能の説明 	東レメディカル 波島
令和04年06月24日 5階病棟	NIP ネーザル V（NPPV）勉強会	<ul style="list-style-type: none"> NIP ネーザル V の取り扱いについて マウスケア・喀痰吸引手順について 滅菌蒸留水補充手順について 	臨床工学技士 大倉
令和04年10月13日 MEセンター	血液浄化装置（TR-2020）勉強会	<ul style="list-style-type: none"> CHDF（緩徐式血液濾過透析）用血液回路のセッティング 血液回路のプライミング方法 その他説明 	東レメディカル 波島
令和04年12月29日 手術室	麻酔器勉強会	<ul style="list-style-type: none"> 麻酔器の構造 麻酔器の始業点検 その他説明 	臨床工学技士 森永

新しい医療機器導入時の研修

日程・場所	勉強会	内容	講師
令和04年06月02日 MEセンター	在宅用NPPV（エアカーブ）勉強会	<ul style="list-style-type: none"> ・装置の組立と設置 ・操作方法 ・測定値の見方 ・医療関係者用モードによる設定変更方法について 	テイジン 遠藤
令和04年08月01日～ 令和04年10月31日 3階病棟	在宅用NPPV（エアカーブ）勉強会	<ul style="list-style-type: none"> ・装置の組立と設置 ・操作方法 ・トラブル対応 	動画視聴 （臨床工学技士 杉浦作成）
令和04年10月06日 MEセンター	在宅用NPPV（エアカーブ）勉強会	<ul style="list-style-type: none"> ・装置の組立と設置 ・操作方法 	動画視聴 （臨床工学技士 杉浦作成）

■ 診療協同部－栄養管理室

1. 令和4年度 部門目標

- ・経営の安定化に向けた対策・・・栄養指導件数増加
- ・医療安全管理の充実・・・安全な食事の提供
- ・医療の質の向上・・・チーム医療の強化
- ・働き方改革への対応・・・超過勤務時間の減少
- ・経営の安定化に向けた対策・・・費用削減策の検討・実施

2. 活動内容と評価

(1) 栄養指導件数増加について

入院患者に対する栄養介入・退院時指導を積極的に実施した。大腿骨頸部骨折患者のクリニカルパスに栄養指導を組み込むことで入院指導の増加に繋がった。外来指導では、対象患者に対し、継続的な指導の必要性を丁寧に説明した。また、オーダー入力状況や指導内容を分析する事で、指導件数の増加を目指したが、目標件数には到達する事ができなかったため、引き続き積極的な栄養介入や分析を行う。

(2) 安全な食事の提供について

厨房スタッフとの定期的なミーティング、衛生に関連する勉強会などを実施し、衛生管理マニュアルや配膳マニュアルの周知を徹底した。また、手洗い・手指消毒の徹底、温度・加熱時間記録などに記載漏れが発生しないよう、チェック体制を整え、食中毒発生予防に努めた。

(3) チーム医療の強化について

入院患者の栄養状態を評価し、栄養リスクのある患者の抽出、早期介入に努めた。患者毎の栄養ニーズを考慮しつつ、適切な栄養摂取方法や栄養計画を提案し、栄養療法の目標が達成されるよう支援した。栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、糖尿病ケアチームなどの活動にも積極的に関与し、適切な栄養管理が実施できるよう支援した。

(4) 超過勤務時間の減少について

超過勤務時間の発生状況を分析し、業務内容や業務分担の調整など対策を講じたが、慢性的な人員不足による影響で、超過勤務時間の減少を達成する事ができなかった。企業説明会への参加や入職時待遇の変更など、人員確保に向けた取り組みを続けるとともに、業務負担軽減を目的とした新調理システムの導入や調理済み食品の活用にも取り組んでいく。

(5) 費用削減策の検討・実施について

食数管理の徹底、食品の使い込み防止対策を講じるとともに、定期的な残渣調査や献立内容の見直しを実施し、フードロスの削減に努めた。各種洗剤・調理用品などの使用量を確認しつつ、消耗品の適正使用を促し、費用削減に努めた。また、光熱費削減への意識向上のため、部署内ポスターの掲示や厨房スタッフミーティングを定期的実施した。

3. 業務実績

(1) 給食数

	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	食数	前年対比	食数	前年対比	食数	前年対比
常食	36,242	107.6%	31,305	86.4%	32,692	104.4%
軟食	59,609	84.9%	57,597	96.6%	54,492	94.6%
流動食	324	104.5%	503	155.2%	807	160.4%
特別食A	48,941	105.2%	44,990	91.9%	50,471	112.2%
特別食B	21,347	69.5%	18,844	88.3%	14,818	78.6%
合計	166,463	91.7%	153,239	92.1%	153,280	100.0%
特食比率	29.4%	114.7%	29.4%	99.9%	32.9%	112.2%
賄食	44,867	94.5%	43,563	97.1%	43,538	99.9%
総合計	211,330	92.3%	196,802	93.1%	196,818	100.0%

(2) 栄養指導件・栄養管理件数

	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	件数	前年対比	件数	前年対比	件数	前年対比
入院栄養食事指導（初回）	209	144.1%	176	84.2%	173	98.3%
入院栄養食事指導（2回目以降）	44	84.6%	40	90.9%	30	75.0%
小計	253	128.4%	216	85.4%	203	94.0%
外来栄養食事指導（初回）	62	55.9%	102	164.5%	150	147.1%
外来栄養食事指導（2回目以降）	404	70.4%	507	125.5%	833	164.3%
小計	466	68.0%	609	130.7%	983	161.4%
糖尿病透析予防指導	504	95.8%	319	63.3%	217	68.0%
栄養指導合計	1223	86.9%	1144	93.5%	1403	122.6%
栄養情報提供加算	20	-	10	50.0%	7	70.0%
栄養サポートチーム加算	427	105.2%	245	57.4%	229	93.5%

4. 各種認定資格について

病態栄養専門管理栄養士	(日本病態栄養学会)
がん病態栄養専門管理栄養士	(日本栄養士会・日本病態栄養学会)
NST 専門療法士	(日本臨床栄養代謝学会)
臨床栄養代謝専門療法士	(日本臨床栄養代謝学会)
糖尿病療養指導士	(日本糖尿病療養指導士認定機構)

■ 薬剤部

1. 部門（部署）目標

- ・医療事業
 - ①診療体制の充実 入院患者への効率的な薬剤管理指導
 - ②診療体制の充実 コロナ治療薬の安定供給、コロナワクチン接種の対応
- ・医療の質・安全強化
 - ③医療の質の向上 多職種が協同した専門的ケアチーム活動の強化・充実
 - ④感染制御の充実 ICT ラウンド、AST の継続実施
- ・地域との連携強化
 - ⑤地域連携体制の充実 入退院支援の強化・充実
 - ⑥住民との連携体制の充実 コロナ明けの市民公開講座の開催
- ・経営管理
 - ⑦経営の安定化に向けた対策 費用削減策の検討・実施
 - ⑧働き方改革への対応 タスクシフト・タスクシェアの検討・実施

2. 活動内容と評価

(1) 病棟における薬剤管理指導の充実を図る

急性期病棟患者の実施率 80%以上には僅かに届かなかったが、薬剤業務実施加算については年度内算定することができた。しかしながら、薬剤管理指導については9月より産休・育休より1名が復帰をしたものの、12月に退職となったため算定件数は前年度比で大きく減少した。来年度については現状維持をしていくことが望まれる。

(2) 美浜町・南知多町の新型コロナワクチン住民接種の薬剤調製

住民接種が終了した令和5年2月末まで継続的に実施できた。

(3) 専門的ケアチーム活動への積極的な関与

がん治療、緩和ケア、栄養サポート、糖尿病ケア、認知症ケア等のチーム活動メンバーとして、積極的に関与することができた。

(4) ICT ラウンドの継続実施およびASTによる抗菌剤適正使用への継続的な介入

ICT ラウンドについては継続して実施することができた。今年度においても昨年度同様に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応に追われた。

ASTによる抗菌剤適正使用への継続的な介入については、前年度を上回る算定をすることができた。今後も継続した取り組み強化が望まれる。

(5) 入退院支援の強化・充実

退院指導件数の増加

前年度比で僅かにマイナスであった。今後も継続した取り組み強化が望まれる。

(6) コロナ明けの糖尿病教室の開催

所管する糖尿病教育委員会が主催する糖尿病教室の実開催をすることを目標に掲げていたが、集合研修の開催が解禁となるまでの間、病院ホームページ上で、委員によるコラム掲載を実施することができた。新型コロナウイルス感染症が5類へ移行した後に実開催をしていきたい。

(7) 価格交渉による購入の効率化および経営的にメリットのある後発医薬品への切替え
価格交渉に関する環境悪化により、昨年度より効率は若干下がったが、本部一括交渉を組み合わせた当院での粘り強い価格交渉により、全事業所の中でも上位で終えることができた。

来年度においても厳しい姿勢で価格交渉をし、より一層原価率を抑える取り組みが求められる。

(8) 医療の質と安全性の向上を目的とした医師への処方支援

処方提案件数、副作用防止件数の増加については、定期的に資材委員会で報告をすることができた。今後も継続した取り組み強化が望まれる。

3. 業務実績

算定項目	令和4年度 算定件数	令和3年度 算定件数	増減
薬剤情報提供料	69,272	65,255	4,017
薬剤管理指導料	4,609	5,548	-939
麻薬管理指導加算	381	493	-112
退院時薬剤情報管理指導料	612	630	-18
病棟薬剤業務実施加算	5,791	5,911	-120
無菌製剤処理料1	703	739	-36
無菌製剤処理料2	2,380	1,651	729
がん患者指導管理料(ハ)	—	234	—
外来化学療法加算	—	692	—
外来腫瘍化学療法診療1	1,830	—	—

(1) 各種認定資格について (令和5年3月31日 現在)

がん薬物療法認定薬剤師	(日本病院薬剤師会)
外来がん治療認定薬剤師	(日本臨床腫瘍薬学会)
緩和薬物療法認定薬剤師	(日本緩和医療薬学会)
NST 専門療養士	(日本静脈経腸栄養学会)
糖尿病療養指導士	(日本糖尿病療養指導士認定機構)
糖尿病薬物療法認定薬剤師	(日本くすりと糖尿病学会)
糖尿病薬物療法履修薬剤師	(日本くすりと糖尿病学会)
病院薬学認定薬剤師	(日本病院薬剤師会)
医療情報技師	(日本医療情報学会)
骨粗鬆症マネージャー	(日本骨粗鬆症学会)
リウマチ財団登録薬剤師	(日本リウマチ財団)
認定実務実習指導薬剤師	(日本薬剤師研修センター)
研修認定薬剤師	(日本薬剤師研修センター)
日本 DMAT 隊員	(厚生労働省)

■ 看護部

1. 部門目標

- ・看護実践能力の向上に努め、安心安全な質の高い看護を提供する
- ・働き方改革の推進
- ・病院経営への積極的な参画

2. 活動内容と評価

(1) 対象のニーズを捉えた確かな看護の実践

①患者の意思決定支援チーム力向上 〈概ね達成〉

- ・IC 同席は 1,153 件 (1,272 件) コロナ禍の感染対策として外来診療棟に相談室を確保、多職種協働による実施。総合カンファレンス 4,140 件 (4,917 件) 退院支援カンファレンス 647 件 (434 件) コロナ感染拡大で実施できない場合も有り。必要な連携は iPad 活用により患者状態を確認など対応した。
- ・ACP は病棟と外来、外来から在宅の情報共有は今後の課題。

②認定看護師の協働する力活動推進 〈未達〉

- ・CN 会の開催、コロナによる影響できなかった状況があった。
認知症 CN と訪問看護 CN は初年度の活動として事例報告会を行った。
現在 CN=8 分野 10 名 R5 年 5 月より感染管理 CN 受講者 1 名研修

③コロナ感染対応の安全な運用・人材育成 〈一部未達〉

- ・求められる組織の役割を理解し対応してきた。7 月以降に職員も感染が増大、各病棟がクラスターとなり感染拡大防止に務めたが人員不足で厳しい状況であった。
- ・感染対応ができるスタッフは増えたが、感染病床を運用するためにさらに人員不足で夜勤協定違反が続いた。

(2) 教育・研修機能の充実

①新人ローテーション研修による双方の成長 〈達成〉

初年度であったが計画どおり実施。同期のコミュニケーションは良好、部署以外の職員に新人として知ってもらえるなど教育的視点以外にメリットがあると思われた。今後の新人教育体制と継続について検討する。

②高齢者の看護実践力強化 〈概ね達成〉

- ・R4 年 1 月から認知症ケア加算 1 算定、認知症加算実患者数 604 件 (548 件)、せん妄ハイリスクケア加算 629 件 (441 件) 増収。DST チーム活動の体制は整ったが看護の関わり質向上は継続課題である。コロナ感染拡大防止のためほぼ院内デイは中断していた。

(3) 医療接遇マナーの向上

①医療接遇マナーの発信・意識改革 〈概ね達成〉

- ・医療接遇マナーについて CN 委員を通しての発信と、看護部は課長運営会で再周知、課

長が中心となり部署指導し接遇に関するクレーム、問題事項は課長の朝会で共有した。必要時、個人面談による確認指導を行った。

2. 働き方改革の推進

(1) 離職防止と定着

① タイムリーな個人面接・支援による離職防止 〈概ね達成〉

- ・新人は年間通して課長面接・教育委員長面接など実施、課長間で情報共有した。新人 16 名中 1 名退職。看護師キャリア面接、ワークライフの支援など面接希望は随時対応、R4 年度退職者 16 名中、3 名は定年者である。(24 名中、3 名) 離職は昨年と比較し減少した。地域包括ケア病棟の夜勤可能な看護補助者は年々減少、採用困難であり今後は看護師 3 人夜勤となる状況。

② 夜勤協定違反者の減少遵守に向けた要員確保 〈一部未達〉

- ・夜勤協定違反数を減少させるには至らず、夜勤定数実施可能なスタッフが必要。
- ・看護師採用説明会は課長全員で関わる当番制としたことで、病院組織・看護部組織の理解となっている。看護部紹介の動画はリクルート担当と施設課の協力で 3 月末に完成したため今後活用する。学校訪問、リクルート活動は年間通じて積極的に行うことができた。求人サイト、インディードは看護師・助産師・パート看護補助者の採用に繋がっている。

年度	正職員 (4月1日時点)	新人採用数 (1年未満退職)	全体 退職率	退職者数 (定年者)
R5	159	17		
R4	153	16(1)	10.0%	16(3)
R3	158	10(6)	15.9%	24(3)
R2	164	13(1)	12.5%	21(3)
R1	170	10(3)	13.7%	23(2)
H30	179	10(0)	11.3%	18(2)

③ 職員満足度調査の実施 〈達成〉

- ・外部業者により病院全体の満足度調査の実施により看護部の課題はより明確に示すことができた。※重点改善項目＝仕事量の適切さ（要員不足・夜勤協定違反・超過勤務）業務量、個人の力量も含め適切な支援と人員配置により、次年度は夜勤協定違反を年内に無くしたい。

(2) 課題の明確化と業務改善

①時間管理・超過勤務の削減・業務改善応援機能の充実 〈一部未達〉

- ・病棟外来一元化による応援機能は継続したが、外来救急のコロナ感染対応が多忙で、日々追われる現状であった。救急の入院時基本データ（リスクアセスメントなど）は一元化メンバーを中心に入力学習会を行った。
- ・夜勤負担軽減として青マスク装着は定着。夜勤明け平均時間外が一人当たり 30 分以内の目標は継続。
- ・4F 急性期病棟は OPE 患者帰室と 17 時以降の緊急入院が重なることで、日勤者の時間外勤務と新人には夜勤ハードルが高い状況があった。平日の OPE 日の夜勤者を 3 名から 4 名に試験開始とした。精神的負担の軽減と新人が 4 人目の夜勤者として順調に夜勤開始することができた。急性期病棟稼働率を 90%以上で維持し、4 人夜勤の体制を安定化させたいと考える。

②急性期看護補助者の業務拡大（タスクシフトシェア） 〈達成〉

- ・急性期病棟の長日勤の負担軽減として看護補助者の遅出時間を変更。10:30~19:00→11:30~20:00 業務内容は患者直接ケア（看護師と協働）と周辺業務、高齢患者の見守りトイレ誘導など、これにより 3F の長日勤時間外は 1 時間以内に減少し、看護補助者の時間外発生はない。今後は継続の有無は部署単位で考えることと、看護補助者の確保が常に必要である。

3. 病院経営への積極的な参画

(1) 診療報酬改定の対応

①施設基準の維持 〈達成〉

- ・急性期入院基本料 1、急性期夜間看護配置加算 16:1、地域包括ケア病棟入院料 1 は維持。コロナ感染病床運用により人員調整は厳しい状況であった。

(2) 効率的な病床運用の実施

①適切なベッドコントロール 〈達成〉

- ・看護課長の朝会で各部署看護師数確認と応援調整、毎月で医事課の報告で在院患者状況など共有を図った。入院・救急患者の減少、病棟満床時は医師にタイムリーに現状発信するなど検討した。クラスター発生時期もあったが救急患者の断りはせず、部署間の協力を日々応援調整することができた。

4. 令和4年度看護部研修

(1) 新人看護師研修

月	日	曜日	時間	内容	講師	参加者人数	
						看護部	他部門
4	1	金		厚生連新採用者入職オリエンテーション	厚生連本部	16	
	4~5	月火	8:30~17:00	病院オリエンテーション	教育研修委員会	16	
	6	水	8:30~17:00	看護部オリエンテーション	看護管理室	16	3
	18	月	8:30~10:30	医療安全対策	看護部	16	6
			10:30~12:30	食事援助	看護部	16	6
			13:30~15:30	標準予防策・清潔操作・針刺し防止	看護部	16	6
			15:30~17:00	振り返り リフレッシュ	看護部	16	
	28	木	8:30~9:30	導尿・膀胱留置カテーテル	看護部	16	5
			9:30~11:00	褥瘡対策・スキンケア	看護部	16	5
			11:00~12:30	吸引・口腔ケア	看護部	16	5
13:30~15:30			演習:事例検討Q&A	看護部	16		
15:30~17:00			振り返り リフレッシュ	看護部	16		
5	2	月	8:30~10:30	高齢者のフィジカルアセスメント・認知症患者のケア	看護部	16	4
			10:30~12:00	経口薬・外用薬・直腸内与薬(処方箋・注射箋)	看護部	16	
			13:00~14:30	心電図モニター・12誘導装着	看護部	16	4
			14:30~16:00	AED・DC	ME	16	4
			16:00~17:00	振り返り	看護部	16	
	6	金	10:30~16:00	静脈血採血・静脈点滴注射・ポンプシリンジポンプ	看護部	16	
			16:00~17:00	振り返り	看護部	16	
	18	水	10:00~12:00	経管栄養を受ける患者の看護	看護部	16	
			13:00~14:00	急変時対応・救急カート	看護部	16	
			14:00~15:30	人工呼吸器取り扱い・BVM	ME	16	
			15:30~17:00	振り返り リフレッシュ	看護部	16	
	31	火	8:30~11:30	標準予防策・清潔操作・針刺し防止	看護部	16	
			12:30~15:30	血管確保	看護部	16	
15:30~17:00			振り返り リフレッシュ	看護部	16		

月	日	曜日	時間	内容	講師	参加者人数	
						看護部	他部門
6	10	金	15:30～ 17:00	振り返り リフレッシュ	看護部	16	
	22	水	8:30～ 9:00	配属部署発表	看護部	16	
			14:30～ 15:30	決意表明	看護部	16	
			15:30～ 17:00	部署オリエンテーション	部署長	16	
8	19	金	14:00～ 16:00	安全安楽のケア・逝去時のケア	看護部	15	
			16:00～ 17:00	リフレッシュ	看護部	15	
9	29	木	15:00～ 17:00	皮下・筋肉注射実践指導	看護部	16	
10	20	木	16:00～ 17:00	リフレッシュ	看護部	16	
2	16	木	15:00～ 16:30	事例を通して看護を振り返る(発表)	看護部	15	
			16:30～ 17:00	振り返り	看護部	15	
合計						572	48

(2) ラダーレベル I 研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
5	6	金	8:30～ 10:30	意思決定支援	看護部	16
	18	水	8:30～ 10:00	看護記録	看護部	16
6	10	金	8:30～ 15:30	薬剤の取り扱い	看護部	16
	22	水	9:00～ 11:30	日常看護提供場面で理解する看護の倫理綱領と看護業務基準(オ)	看護部	16
			12:30～ 14:30	チーム医療の構成員である看護師として果たすべき役割(オ)	看護部	16
7	14	木	15:00～ 17:00	看護課程	看護部	15
9	20	火	13:00～ 15:00	メンバーシップ	看護部	5
10	20	木	14:00～ 16:00	地域における自施設の役割	看護部	16
合計						116

(3) ラダーレベルⅡ研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
7	1	金	15:00～ 17:00	看護研究とは	外部講師	8
9	22	木	10:00～ 12:00	医療安全対策	医療安全	8
			13:00～ 17:00	感染対策	感染制御	8
10	19	水	13:00～ 15:00	リーダーシップ	看護部	8
			15:00～ 17:00	人材育成	看護部	8
11	10	木	13:00～ 15:00	標準的な看護計画に基づくフィジカルアセスメント	看護部	8
12	15	木	13:00～ 17:00	地域包括ケアシステムを形成する施設・職種・制度(オ)	看護部	8
			15:00～ 17:00	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスとその理解(オ)	看護部	8
1	20	金	16:00～ 17:00	薬剤の取り扱い	医療安全	8
合計						72

(4) ラダーレベルⅢ研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
7	21	木	15:00～ 17:00	コーチング	看護部	4
9	7	水	15:00～ 17:00	看護研究方法/量的データ収集の考え方と具体的方法	外部講師	3
10	13	木	13:00～ 15:00	自施設周辺の地域包括ケアシステムの理解(オ)	看護部	4
			15:00～ 17:00	ケアの受け手の意思決定における権利擁護(オ)	看護部	4
	26	水	10:00～ 12:00	人材育成	看護部	6
			13:00～ 15:00	看護管理	看護部	6
			15:00～ 17:00	アサーション	看護部	6
11	14	月	13:00～ 15:00	ケアの受け手の全体像把握のためのアセスメント統合(オ)	看護部	6
			15:00～ 17:00	ケアの改善のためのエビデンスの活用(オ)	看護部	6
	16	水	15:00～ 17:00	看護研究方法/質的データ収集の考え方と具体的方法	外部講師	2
12	16	金	15:00～ 17:00	医療安全取り組み報告	医療安全	3
	22	木	13:00～ 15:00	協働におけるコンサルテーションと多職種カンファレンス(オ)	看護部	5
			15:00～ 17:00	ケアの受け手の状況に応じたフィジカルアセスメント(オ)	看護部	5
3	9	木	13:00～ 15:00	急変の予測と救命救急場面の対応(オ)	看護部	6
			15:00～ 17:00	看取りにおける尊厳の尊重と苦痛の緩和(オ)	看護部	6
合計						72

(5) ラダーレベルIV研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
10	5	水	13:00～ 17:00	ファシリテーション	厚生連	3
	18	火	9:00～ 13:00	クリティカルシンキング	厚生連	1
11	9	水	13:00～ 15:00	ケアの受け手の自己決定を支える多職種の協働・連携(オ)	看護部	2
	15	火	9:00～ 13:00	クリティカルシンキング	厚生連	1
12	14	水	13:00～ 17:00	クリティーク	厚生連	3
	20	火	13:00～ 17:00	看護管理	厚生連	3
合計						13

(6) 他研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
7	14	木	16:15～ 17:00	重症度、医療看護必要度	委員会	22
9	3	土	9:00～ 11:00	院内看護研究発表	外部講師	53
10	27	木	17:00～ 18:00	クリパス学習会	委員会	16
合計						91

■ 医療安全管理部

1. 部門目標

- ・多職種と連携し、医療安全対策の実施と評価を行う
- ・医療安全報告の推進・共有・分析を行う
- ・医療安全教育を実施し職員の安全意識の向上を図る
- ・地域の医療機関との連携を継続する

2. 活動内容と評価

1) 多職種と連携し、医療安全対策の実施と評価を行う

(1) 事例検討について

事例検討会開催件数

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R3	3	3	3	2	3	3	3	3	2	0	3	3	31
R4	3	4	4	3	3	4	5	3	3	2	2	3	39

- ・医療安全対策委員で構成した担当者が、事前に事例検討を行った後、医療安全対策委員会で改善策を再検討した。令和4年度は、39件で前年度より8件増加した。

(2) 医療安全ラウンドについて

- ・医療安全対策委員担当者巡視による医療安全対策実施後の評価、潜在リスクの把握を1回/月行った。その結果と対策を医療安全対策委員会で共有し、各部署に周知した。部署の改善結果を医療安全対策委員会で情報共有した。

2) 医療安全報告の推進・共有・分析を行う

(1) 医療安全報告書について

医療安全報告件数

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R3	57	51	52	63	65	29	66	49	37	44	40	53	606
R4	54	62	48	55	62	53	48	44	46	57	39	39	607

- ・令和4年度医療安全報告件数は607件であり前年度と比較し1件増加した。
- ・令和6年3月までに医療安全報告システムを変更し報告しやすい環境づくりを行う。

(2) 医療安全カンファレンスについて

- ・医療安全カンファレンス開催件数は、87件/年で前年度より5件増加した。
- ・評価カンファレンス開催件数は、72件/年で前年度より15件増加した。
- ・医療安全管理部門を含むカンファレンス開催件数は、109件/年で前年度より49件増加した。

3) 医療安全教育と職員の安全意識の向上を図る

(1) 医療安全研修について

①前期医療安全全体研修

- ・日 時：令和4年8月23日（火）～9月9日（金）
- ・内 容：「患者・家族とのコミュニケーション」講義
- ・受講者：396名

②後期医療安全全体研修

- ・日 時：令和5年1月16日（月）～1月25日（水）
- ・内 容：事例に学ぶ医療安全（院内で報告された2事例）
医薬品安全使用講習・医療機器安全使用講習・診療用放射線の安全使用講習
- ・受講者：400名

(2) 医療安全推進月間

- ・目的：危険予知能力の向上を目指す
- ・実施：令和4年10月～11月全部署ポスター掲示
活動状況についてラウンドを行い、医療安全対策委員会で周知

4) 地域の医療機関との連携を継続する

(1) 医療安全地域連携加算に伴う連携病院相互評価の実施について

①医療安全対策加算Ⅰ病院

令和5年1月10日（火）、令和5年1月16日（月）に開催

②医療安全対策加算Ⅱ病院

令和4年7月14日（木）に開催

(2) 知多半島医療圏8病院医療安全連携について

①知多半島医療圏8病院医療安全担当者会議（7病院参加）

令和5年3月7日（火）に開催

3. 業務実績

- ・医療安全対策加算Ⅰ取得
- ・医療安全地域連携加算取得

4. その他

1) 重大事故（医療事故調査制度報告事例）について

- ・医療事故調査制度の対象事例は0件であった。

■ 感染制御部

1. 部門目標

- 1) 第二種感染症指定医療機関として知多半島南部医療圏での役割を果たす
- 2) 感染制御を推進することで安心な医療を提供する

2. 活動内容と評価

- 1) 第二種感染症指定医療機関として知多半島南部医療圏での役割を果たすについて
 - ・ 関係機関・地域の医療機関との連携の強化として、知多半島医療圏感染対策連携会議に参加し情報交換・情報共有を行った。また、相互ラウンドを通じて、互いを客観的に評価・指摘できる関係を築くことが出来た。
 - ・ 感染防止対策の情報提供として、国内外の感染症発生動向について委員会等を通じて随時情報提供を行った。
 - ・ COVID-19(新型コロナ)感染症の動向監視として、フェーズの見直しと対策変更の発信を行った。感染病棟の運用管理、備蓄用防護具、備蓄薬品についての検討を行った。
- 2) 感染制御を推進することで安心な医療を提供するについて
 - ・ ICT チーム活動として、COVID-19(新型コロナ)感染予防対策の実施、研修会を開催した。また、耐性菌患者、医療器具使用者、環境のラウンドを実施し現場にフィードバックした。手指消毒使用量、CV感染、SSI、細菌検査部門サーベイランスを実施し対策を評価した。
 - ・ 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）活動としては、特定抗菌薬使用者、有症者のモニタリングを実施した。また、外来における経口抗菌薬の処方状況の把握を行った。

3. 業務実績

① 地域医療機関・行政との連携

<知多半島医療圏感染対策連携会議>

開催日	参加施設	議題
令和4年6月15日	知多厚生病院 公立西知多総合病院	AUD調査報告
令和4年9月21日	半田市立半田病院 常滑市民病院	乾性手指消毒剤払い出し状況
令和4年11月16日	石川病院 知多小嶋記念病院	耐性菌検出状況
令和4年 2月15日	杉石病院 みどりの風南知多病院 渡辺病院 共和病院 一ノ草病院 国立長寿医療研究センター あいち小児保健医療総合センター 半田保健所長 知多保健所長 知多郡医師会 半田市医師会 東海市医師会	職種別カンファレンス

<連携カンファレンス>

開催日	施設名	内容
令和4年6月15日	浜田・整形外科内科クリニック	発熱外来の導線確認 アウトブレイク発生時の連携 について
令和4年7月6日	内科・外科渡辺医院	
令和4年7月27日	すこやかクリニック	
令和4年9月13日	なかしまキッズクリニック	
令和4年11月15日	岩井内科クリニック	

<相互ラウンド>

開催日	施設名	内容
令和4年11月10日	常滑市民病院が来院	院内ラウンド感染防止対策地域連携加算 チェック項目表に沿ってラウンド
令和4年11月24日	常滑市民病院を訪問	

② 教育・啓発活動

日時	対象	内容
令和4年4月4日	入職者	感染対策について
令和4年4月18日	看護師教育ラダー I	感染対策研修
令和4年7月11日～ 7月29日	全職員	日本の水際対策における検疫所の役割 (動画視聴)
令和5年2月13日～ 3月9日	全職員	環境調査の報告と コロナアウトブレイクの振り返り (動画視聴)

③ サーベイランス・ラウンド

- ・ J-SIPHE に参画
- ・ JANIS の SSI、細菌検査部門に参画
- ・ 手指消毒薬使用量サーベイランスの実施
- ・ 環境ラウンドと手指消毒直接観察ラウンドの実施

4. その他

- ・ 令和4年8月に、厚生労働省による「介護施設及び介護事業所における実地での研修」事業の講師として2施設を訪問。
- ・ 令和4年8月に、愛知県看護協会による「クラスター発生時の看護師派遣制度」として武豊町の特別養護老人ホームで感染拡大防止対策活動を実施。
- ・ 令和5年1月に、厚生労働省による「介護サービス類型の応じた感染症対策力向上支援業務」であるBCP策定のための集団研修にファシリテーターとして参加。

■ 事務部

1. 部門目標

- | | |
|--------------|---|
| 救急医療の充実 | － 近隣地域を含めた消防との連携強化 |
| 経営の安定化に向けた対策 | － 付加価値増加策の検討/病床利用率の向上
費用削減策の検討・実施 |
| 行政との連携体制の充実 | － 地元行政との連携強化、補助金の継続的交渉 |
| 住民との連携体制の充実 | － 広報誌、ホームページを通じて情報発信
コロナ明けの住民公開講座の開催 |
| 働き方改革への対応 | － 時間外勤務削減に向けた業務見直し |

2. 企画課

(1) 活動内容と評価

1) 新型コロナウイルスへの対応

- ・令和4年7月より第7波の流行により発熱外来・接触者外来の患者数が増加し、休日にも発熱外来を実施するなどして対応した。
- ・新型コロナウイルスのワクチン接種については地元行政と協力して住民接種を行った。

2) 新たな支援（補助金）の獲得への対応

- ・新型コロナウイルス関連の補助金については施設課および本部と連携しながら対応し、設備補助金・運営費補助金を申請し受給した。

3) 広報活動の充実

- ・リニューアルした病院ホームページにおいては、従来からの休診情報に加え、新型コロナウイルスの感染予防対策や連休中における発熱外来の臨時診察の告知など、タイムリーな情報発信に努めたことでホームページへのアクセス件数が増加した。

4) 部署間連携強化の取り組み

- ・毎年、JAあいち知多美浜事業部、武豊事業部（平成26年度より）と連携し、JA組合員への健康増進を目的に両町の産業まつりへ参画してきたが、新型コロナウイルスの感染拡大のためイベント参加を控えポスター掲示による参加に留めた。
- ・毎年医師が住民向けに講演を行ってきたが、新型コロナウイルスの感染拡大により開催を中止した。

5) 次年度事業計画の作成

- ・例年夏場に各診療科、部門とヒアリングを行ってきたが、新型コロナウイルス第7波の流行により規模を縮小し、個別聞き取りにより次年度の各部門の方針や目標など情報収集するとともに、各部門の適正な人員配置等についての考えを確認した。

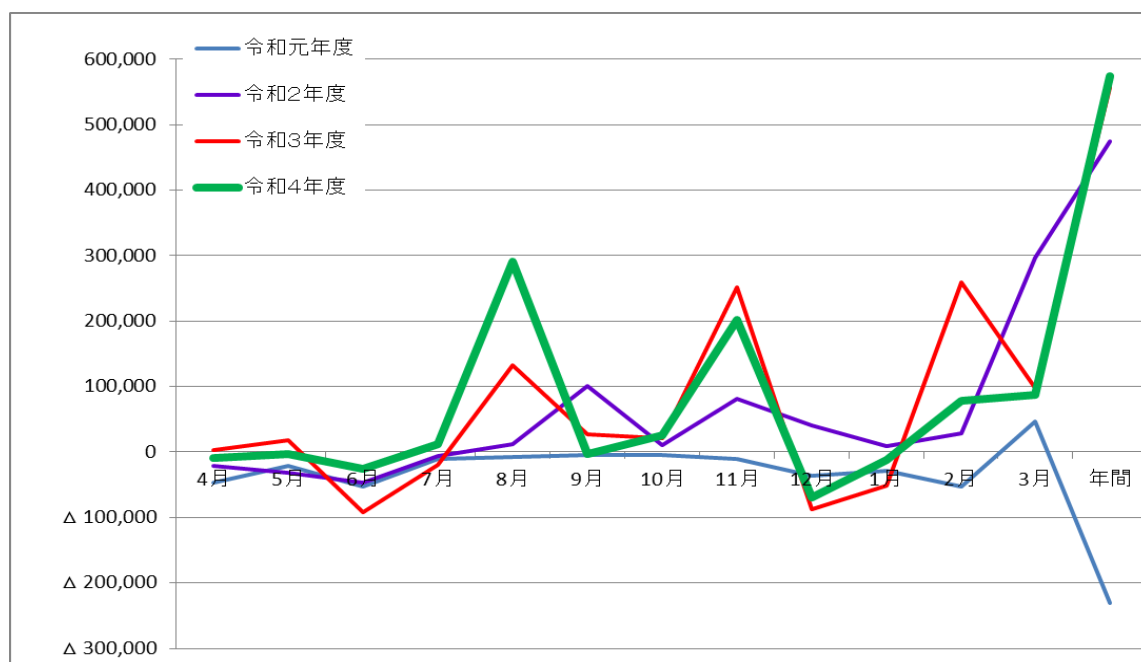
6) 経営管理（収支分析と報告）

- ・毎月、収入・費用を前年対比、予算対比で増減分析を実施し、事務役付者会議や管理者会議、運営会議にて収支報告を行い、収入や費用に対する意識統一を図った。
- ・病床再編により収支改善が図られ、改善状況を継続するためにもわかりやすい資料を提示して職員周知を行った。

(2) 実績報告

1) 目標回収額の状況について

(千円)



回収額推移	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	単位：千円
令和元年度	△ 47,308	△ 21,164	△ 52,821	△ 10,883	△ 7,177	△ 5,372	△ 4,695	△ 10,960	△ 36,591	△ 28,622	△ 52,999	47,315	△ 231,277	
令和2年度	△ 21,011	△ 31,160	△ 46,339	△ 6,218	12,589	100,441	10,163	81,211	40,144	8,863	29,082	296,860	474,623	
令和3年度	2,662	18,684	△ 91,676	△ 20,066	132,090	26,677	20,902	250,881	△ 87,948	△ 50,750	258,568	97,618	557,642	
令和4年度	△ 9,509	△ 2,748	△ 25,604	12,310	290,496	△ 2,564	25,860	202,230	△ 68,858	△ 12,773	78,605	87,150	574,596	

■ 事務部

3. 医事課

活動内容と評価

1) 新型コロナウイルス対応

- ・令和4年度も夏期の第7波、冬期の第8波を中心に、新型コロナウイルスの影響が色濃く残り、その対応に追われた1年となった。前年同様に発熱外来、接触者外来にて継続的に感染疑い患者の診療や感染症病床への入院診療について、日々変化していく感染状況に合わせた運用調整を随時行った。診療報酬請求に関しても特例措置の取り扱いが流動的であったが、算定可能なものを慎重に模索、検討して適切な請求に心掛けた結果、新型コロナウイルス特例加算における2億5千万円程の収入増加に繋がった。また、今年度も美浜町、南知多町の要請を受け新型コロナワクチン接種を実施。その運用構築と実行に参画して年間3,630件の接種を遂行した。

次年度は5類への移行が予定されており、運用、対応の変更が予想される。アフターコロナを見据えた本来の医療提供体制再構築のため、医事課の枠を超えた全病院的対応に尽力していく。

2) 病床稼働の管理

- ・安定的な収入確保のため、病床稼働を高水準で維持する必要がある、病床運営管理委員会にて病床稼働の改善案や分析を行った。10月に新型コロナウイルス入院対応のため確保した病床20床の開放後、稼働率が低下。対応策として全職員に向けた“病床稼働改善に向けた院長発信”を医事課主導で行った。救急、紹介患者の増加、在院日数の延長、地域包括ケア病棟活用の重要性を周知、11月以降の稼働率回復に繋がった。また、救急患者増加策として、医局会にて不応需抑制の依頼を踏まえた救急受入強化の周知を行うとともに、常滑地域への救急搬送エリアの拡大を企図し、常滑消防への訪問を実施した。その結果、常滑地域からの救急搬送件数が183件（前年128件）と増加した。

今後も、関係各所と連携しながら、入院患者確保に向けた取り組みを進めていきたい。

3) 増収対策

- ・4月に診療報酬改定が行われたが、必要な届出関連を遅滞なく提出、新設項目も可能な限り調整して取得した。中でも、「二次性骨折予防継続管理料」と「緊急整備固定加算及び緊急挿入加算」は医事課が主体的に運用を構築、基準取得ののち算定開始しており年間350万円の増収に繋がった。

また、病棟管理検討会にて、退院や地域包括ケア病棟への転棟時期が検討されるが、医事課病棟担当者も参加し、DPC期間や算定可能な入院料、出来高項目を考慮した資料を提供し、ベッドコントロールの判断に収入的視点を組み入れるように努めている。

次年度は新型コロナウイルス特例加算が廃止され、入院外来ともに単価の減少が予想される。経営改善・業務調整委員会等を利用して、病院全体でのコスト意識への醸成に繋がる提案をしていきたい。

■ 事務部

4.総務課

活動内容と評価

1) 要員管理について

- ・各部署とのヒアリングを実施し、各部署、各職種における適正な人員の把握に努め、要員計画を策定した。

しかしながら、一部の専門職において、目標とする採用者数に届かなかった職種があり、学校訪問などを実施して、継続して募集活動を行った。

- ・初期研修医については、2名の定員に対して2名を確保することが出来た。
- ・今後も、経営状況とのバランスを考えながら、マンパワー確保に向けた取り組みを継続していく。

2) 働き方改革について

- ・医師の働き方改革が進められる中、当院において長年に渡り医師の長時間労働の是正に向けた取り組みを行ってきた結果、A水準の基準値を下回る36協定を締結しつつも、同協定が遵守される環境を維持している。

医師以外の職種においても、36協定の遵守と産業医による職場巡視の活用等により、働きやすい職場環境の整備・維持に努めた。

- ・年5日間の有給休暇取得については、各職場における上半期の取得状況を周知し、時季指定の活用も行った結果、医師を含めた全職員が取得することができた。次年度以降も職員のQOLを高めるべく、取り組みを継続する。

3) 院内保育所について

- ・本年度も、ママさん職員が安心して働くことが出来るよう、より預けやすい環境整備に努めた。

職員の知識向上の他、玩具の更新などを進めた結果、利用満足度も高い水準を維持している。

- ・定期的に保育所委員会を開催し、保育方針の検討やママさん職員からの意見聴取をするなどの取り組みを継続した。

■ 事務部

5. 施設課

活動内容と評価

1) 新型コロナウイルス感染症補助金の有効活用

第6波～7波にかけて、受診者数も非常に増えてきた。補助金の有効活用を行い、受診者数の増加に対応し、院内で検査を行う機器の増設を行なった。

また、要綱を遵守し、新型コロナウイルス感染症に使用するものの申請のみを行った。

2) 災害拠点体制強化

毎年実施している災害訓練では、例年地域医療を守るための連携強化を目的として、美浜町や南知多町、半田保健所、近隣病院ならびに知多南部消防組合消防本部と協同して地域災害拠点病院災害連携訓練を行ってきたが、コロナ禍のため、桃陵高校院との合同訓練とし、行政等とは実施を見送った。今年度は、事前に事務職のみで報告書等をまとめる訓練を行い、全体の訓練では、スムーズな情報整理を行うことができた。また、政府訓練と同日に実施することで、外部 DMAT 等の受入れも実施することができた。

知多半島医療圏内にある桃陵高校へ災害講話およびグループディスカッションを行い、啓発活動を行った。

3) 費用削減

外調機や院内のパッケージエアコンの間欠運転を実施した。通常の間欠運転とは異なり、停止ではなく送風にすることで、停止時の温度上昇を抑えることが可能となり、大きな省エネに寄与した。

また、他の厚生連病院でメーカーサービスエンドとなった機種を更新時に譲渡いただくことで故障時のバックアップとして当院の更新計画を後ろ倒しにすることをを行った。

4) 施設整備計画

医療機器の購入では、厚生連8病院の購入品目を洗い出し、メーカー毎に導入実績およびその病院の特徴にあった内容を踏まえながら一括交渉を行うことで、過去最安値を達成できた。

■ 医療情報部

1. 部門目標

- ・電子カルテの安定稼働
- ・医療安全の充実、診療録管理の充実により、医療の質向上を目指す
- ・経営の安定化に向けた取り組み強化に向けて、個人のスキルアップと人材育成を行う
- ・コンピューターを使用した自動化による業務のスリム化への取り組み

2. 活動内容と評価

1) 電子カルテの安定稼働について

- ・定期再起動による停止も含め、電子カルテの障害停止はありませんでした。

2) 経営の安定化に向けた取り組みについて

- ・電子カルテ、医事会計システムに蓄積されたデータから、種々のデータを抽出し、経営分析の基となる数値の提供を行った。

3) 個人のスキルアップについて

- ・業務の自動化に関するソフトウェアを使用するスキルを身につけるために、勉強会などに参加、簡単な業務において一部自動化を行った。

3. 業務実績

- 1) 業務支援となるツールの作成において、ME 機器の貸し出し管理のソフトウェアを作成し、借り受け者の手間の軽減に貢献した。

■ 保健事業部 健康管理課

1. 部門（部署）目標

- ①ご意見箱などから意見内容の検討・改善・実施する
- ②2023 年度人間ドック学会認定機構機能評価受審
- ③人間ドック及び各種健診の利用者確保
- ④要精検受診者確保に向けた取り組み

2. 活動内容と評価

①ご意見箱などからの意見内容の検討・改善・実施するについて

令和 4 年度ご意見数：4 件

ご意見より、健診着の変更やホームページ、パンフレットや受診者への郵便物など文字や数字が見やすいように修正を行った。

以後、同様なご意見なし。今後も真摯に対応していく。

②2023 年度人間ドック学会認定機構機能評価受診について

- ・2023 年 3 月 27 日機能評価受審、施設認定を取得した。今後認定施設として質の向上を目指し、部署内勉強会や学会などで発表できるよう取り組む。

③利用者確保について

- ・武豊町がん検診「乳・子宮がん」について、令和 4 年度は各 30 件確保できた。
- ・海上保安署からの B 型ワクチン接種について契約を締結した。
- ・胃カメラ枠 4 件/日を水曜日のみ 5 件/日へ増やし年間 27 件増（998 件）となった。
- ・令和 5 年 4 月より開始する「下肢筋力測定」のパンフレットを作成し健診案内と一緒に郵送した。
- ・乳・子宮がん検診受診者確保のためにポスターを作成し外来掲示板に掲載した。また、同ポスターのパンフレットを健診パンフレットと共に美浜町・南知多町・武豊町の保健センターにも設置していただいた。

④要精検受診者確保に向けた取り組みについて

- ・令和 4 年度未受診者に対して受診依頼の手紙の郵送を開始した。その後の未受診者に対する対応を検討し取り組んでいく。

項目	精検受診率 (A/B)	要精検者数 (A) (人)	合計 (B) (人)	自院受診 (人)	他院受診 (人)	未受診・ 未把握 (人)
胃がん検診	49.6%	122	246	60	62	124
肺がん検診	39.0%	48	123	32	16	75
大腸がん検診	31.5%	34	108	21	13	74
子宮がん検診	57.9%	11	19	8	3	8
乳がん検診	79.6%	113	142	96	17	29
前立腺がん検診	46.7%	14	30	10	4	16

3. 業務実績

①保健指導活動（特定保健指導）

全国健康保険協会の保健指導活動（特定保健指導）			
	令和3年度（人）	令和4年度（人）	前年対比
動機付け	34	27	79.4%
積極的	24	35	145.8%
合計	58	62	106.9%

②受診者数と収入（健康管理センター保健活動集計より）

項目	受診者数（延人数）（通計）			収入（通計）		
	令和3年度 （人）	令和4年度 （人）	前年 対比 （%）	令和3年度 （円）	令和4年度 （円）	前年 対比 （%）
J A 関連	1,402	1,372	97.9	18,555,612	18,010,582	97.1
協会健保	978	962	98.4	16,756,026	16,859,188	100.6
市町村	1,838	2,208	120.1	17,294,340	19,432,052	112.4
その他 （企業・ 個人等）	4,707	4,623	98.2	35,950,586	35,766,088	99.5
予防接種	544	216	39.7	2,868,670	805,510	28.1
総合計	9,469	9,381	99.1	91,425,234	90,873,415	99.4

■ 地域医療福祉連携部

1. 部門目標

- (1) 地域医療提供体制の強化による地域包括ケアシステムの推進
 - ・ 近隣地域の病院・開業医・施設との連携強化（紹介率向上）（利用者確保）
 - ・ 入退院支援の実施
- (2) 働き方改革への対応
 - ・ 時間外勤務削減に向けた業務改善
 - ・ キャリアデザインを踏まえた人材育成
- (3) 病院経営の積極的な参画
 - ・ 診療報酬改定による新規基準取得にむけた検討・実施
 - ・ レスパイト入院の受け入れ体制強化

2. 地域医療福祉連携室

(1) 活動内容と評価

1) 利用者に活かす医療講座の開催

- ・ 新型コロナウイルス感染予防対策と ICT 利用促進のため、オンラインで開催した。

日時：令和5年1月19日（木） 13時30分～15時

テーマ：『災害時の医療体制と平時からの備え ～在宅医療機器などの知識～』

講師：訪問看護認定看護師 中野久美子

参加者：30名（13事業所）

2) ACP の普及推進

- ・ 知多半島医療圏近隣 7 病院（中京病院、南生協病院、公立西知多総合病院、国立長寿医療研究センター、半田市立半田病院、常滑市民病院、知多厚生病院）で構成される「知多半島において、ACP と EOLD を推進する会」の定例会（年 2 回）で各施設での取り組み状況を情報共有し、WEB での研修会に参加した。

3) 医師会症例検討会ミニレクチャーの開催

- ・ 美浜町及び南知多町の医師会と知多厚生病院で、病診連携体制を構築することを目的とした症例検討会ミニレクチャーを年 11 回開催した。

4) 地域包括ケアシステム参画

- ・ 美浜町と南知多町の地域包括ケアシステム推進協議会に参加し、地域包括ケアシステム構築に必要な連携課題について検討した。

5) 総合相談対応マニュアル

- ・ 令和 4 年 3 月の居宅介護支援事業所閉鎖に伴いマニュアルを改正し、周知を図った。

3. 地域連携課

(1) 活動内容と評価

1) 質の高いサービスの提供

- ・ 紹介患者の窓口対応は、予約・予約外にかかわらず対応する体制とし、患者サービ

スの向上に努めた。

2) 関係機関との連携強化

- ・ 関係機関に訪問し、レスパイト入院の受け入れ・コロナ患者の受診対応等の案内を行った(訪問件数 43 件)。武豊町や半田市の関係機関と連携が強化されたことで、紹介件数は前年比で増加した。

・

(2) 実績報告

1) 紹介実績

- ・ 別表にて

4. 医療福祉相談課

(1) 活動内容と評価

1) 入退院支援の充実

- ・ 退院困難患者における退院支援カンファレンスの実施率は 59.9%だった。令和 3 年度実施率 54%に比べると増加はしているが、病床の受け入れ制限の影響があり 65%の目標は未達となった。
- ・ 面会制限中でも入院時連携のカンファレンス(介護支援連携指導料 1 回目)を実施できるよう、オンラインでのカンファレンスの仕組みを構築した。在宅療養支援委員会での承認を経てケアマネジャーとオンラインでの入院時連携カンファレンスを実施することができた。

2) 地域の医療、福祉、介護との連携

- ・ 各医療機関、施設の新型コロナウイルス対応状況や受入基準の把握を随時行った。感染制御部と共有して、新型コロナウイルス感染症患者の退院支援に活かした。
- ・ 介護老人保健施設の入院ニーズに応じられるよう、施設から地域包括ケア病棟への受け入れの仕組みを構築し、地域の介護老人保健施設へ案内した。

3) 患者支援の充実

- ・ オンライン面会の対応を継続した。毎月 9 割以上予約が埋まっている状況であった。
- ・ レスパイト入院の案内を積極的に行ったが、新型コロナウイルス感染症による病床制限のため受け入れを断るケースが複数発生した。レスパイトを必要とする患者が利用出来るよう、地域への発信を今後も検討する。

4) 病院経営への積極的な参画

- ・ 入退院支援加算 1 は 675 件算定でき、前年度の 588 件を上回った。

(2) 実績報告

1) 相談支援延べ件数（退院支援カンファレンス含む）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	905	904	1,111	890	854	879	903	986	947	1,003	1,009	993	11,384
令和3年度	909	762	816	757	829	813	794	839	884	832	871	1,121	10,227

2) 入退院支援加算1算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	52	59	59	56	45	67	56	53	66	45	57	60	675
令和3年度	69	38	43	49	40	51	40	48	63	46	40	61	588

3) 介護支援連携指導料算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	6	4	9	3	6	6	3	4	6	3	2	3	55
令和3年度	7	5	5	5	8	9	8	6	5	2	5	9	74

4) 退院時共同指導料2算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	3	4	1	3	3	5	5	5	5	1	4	6	45
令和3年度	5	2	7	3	0	7	3	4	4	1	5	5	46

5) 患者サポート体制充実加算（総合相談窓口）相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和4年度	4	5	8	1	2	0	6	4	3	3	2	5	43
令和3年度	3	4	8	8	5	5	4	8	8	4	5	6	68

6) 主な会議・出張の件数

会議・出張・研修（開催件数）	
委員会	56
院内会議・ミーティング	33
退院検討会	318
カンファレンス（個別ケースを除く）	101
総合相談カンファレンス	17
医療福祉相談課ミーティング	17
医療機関・福祉施設・教育機関等 訪問	10
院外会議（オンライン含む）	14
院内・院外研修会（運営含む）	23

7) 学生等の受け入れ

概要	大学・学部など	期間
医療ソーシャルワーク実習	日本福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科 医療専修4年生1名	2022年8月8日 ～9月8日 (内12日間)

愛知県立桃陵高等学校の看護臨地実習（統合実習）カリキュラムも一部対応した。

5. 介護管理課

(1) 活動内容と評価

1) 各種届出等の作成

▽通所リハビリテーション

- ・ 管理者変更の届出書類を作成し、提出した。

▽訪問看護ステーション

- ・ 管理者の変更及び、運営規程の変更（職員数、利用料等）の届出書類を作成し、提出した。

2) 働きやすくやりがいのある環境づくり

- ・ ケアパレットの導入に伴い、訪問看護の請求業務の運用を見直し、時間外業務の大きな削減に繋がった。

(2) 実績報告

1) 各種届出内容

▽通所リハビリテーション

- ・ 令和4年4月1日 管理者・運営規程 変更

▽通所リハビリテーション

- ・ 令和4年4月1日 管理者 変更
- 2) 監査
- ・ 特になし

6. 訪問看護ステーション

(1) 活動内容と評価

1) 質の高い看護の実践

- ・ 計画的な学習会を毎月、カンファレンスを毎月部署ミーティングにおいて実施した。カンファレンスでは台数を増やしたタブレットを活用して情報を共有し、各スタッフが利用者情報を把握し共通した適切な処置・ケアの実施につながっている。
- ・ リスクは薬剤の組み間違い、誤 FAX があり早期に改善対策を行った。
- ・ 接遇に関して部署ミーティングで勉強会を開催した。継続して接遇の確認や声かけを行っていく。

2) 働きやすくやりがいのある環境づくり

- ・ タブレットの導入により、効率的な記録、報告書・計画書の作成ができています。記録・管理に要した時間外労働は前年より 91 時間の削減となった。
- ・ 目標マネジメントの面接等を活用し個々のキャリアデザインを踏まえた人材育成に取り組んだが、職務満足度調査において重要改善項目であった。

3) 病院経営への積極的な参画

- ・ 看護体制強化加算 I の基準を維持した。
- ・ 地域包括ケア病棟入院基本料 I に必要とされる退院前カンファレンスは、全て参加した。

(2) 実績報告

1) 訪問実績

- ・ 別表にて

地 域	医療機関名	内 科		小児科		外 科		整形外科		脳神経外科		皮膚科		泌尿器科		産婦人科		眼 科		耳鼻咽喉科		検 査		合 計		増 減		
		令和 4年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 3年度	件数 (件)
	北千葉整形外科美浜クリニック							1																		1	▲ 1	0%
	榑原整形外科											1														1	▲ 1	0%
	横山医院		1																							1	▲ 1	0%
	小豆島中央病院															1										1	▲ 1	0%
	青木クリニック																				1					1	▲ 1	0%
	朝日大学病院		1																							1	▲ 1	0%
合 計		755	712	22	22	147	153	228	230	218	206	230	270	66	74	49	49	111	92	93	78	169	193	2,088	2,079	9	100%	
増 減	件 数 (件)	43		0		▲ 6		▲ 2		12		▲ 40		▲ 8		0		19		15		▲ 24		9				
	比 率 (%)	106%		100%		96%		99%		106%		85%		89%		100%		121%		119%		88%		100%				

令和4年度 訪問看護ステーション実績報告

Chita Kosei Hospital

令和4年		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	通計	平均
営業日数		21	19	22	20	21	20	20	20	21	20	19	21	244	20.3
新規契約者数		5	8	5	12	4	4	8	3	7	11	6	7	80	6.7
入院・入所者数		5	14	4	4	8	12	7	11	14	11	6	7	103	8.6
中止・終了者数		4	1	1	1	4	1	3	1	2	2	3	2	25	2.1
死亡者数		4	2	4	5	4	6	0	0	5	10	4	6	50	4.2
看取り者数(再掲)		0	1	1	2	1	3	0	0	2	5	1	5	21	1.8
利用者数 (人)	医療	15	19	15	19	15	16	14	16	17	15	14	17	192	16.0
	介護	83	86	83	88	83	80	82	80	82	87	82	78	994	82.8
	合計	98	105	98	107	98	96	96	96	99	102	96	95	1,186	98.8
	前年対比	96.1%	98.1%	87.5%	98.2%	88.3%	88.1%	84.2%	96.0%	94.3%	98.1%	91.4%	96.0%		93.0%
訪問件数 (件) (リハ1単位で計算)	医療	86	71	78	88	93	70	64	72	63	59	58	81	883	73.6
	介護	551	554	573	559	592	489	497	518	543	497	525	569	6,467	539
	合計	637	625	651	647	685	559	561	590	606	556	583	650	7,350	613
	前年対比	101.4%	103.6%	89.4%	97.6%	105.2%	81.4%	73.6%	88.3%	88.3%	86.7%	93.1%	96.7%		92.1%
緊急訪問件数 (看護)	営業時間内	10	11	9	10	8	3	3	7	9	2	7	10	89	7.4
	営業時間外	4	10	8	12	16	12	6	18	11	18	14	12	141	11.8
	深夜(再掲)	1	0	1	2	1	2	0	4	2	3	1	0	17	1.4
時間外(分)	看護緊急訪問	1,750	590	725	1,525	1,605	1,315	505	950	1,015	1,339	980	910	13,209	1,101
	看護記録・管理	3,005	3,975	870	1,480	990	690	460	460	650	1,760	370	710	15,420	1,285

【看護体制強化加算】 要介護者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	通計	平均
①緊急加算 (%)	90	86	82	81	76	76	77	78	77	78	72	79		79.3
②特別管理加算(%)	53	51	50	48	48	46	49	51	50	44	41	40		47.6
③ターミナルケア加算合計(件)	0	0	1	1	0	1	0	0	0	2	1	2	8	0.7
看護体制強化加算	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I		

※ 算定要件 ①緊急時訪問看護加算50%以上、②特別管理加算20%以上、(算定月の前6ヶ月で) ③ターミナルケア加算5件以上(I)、1件以上(II)、(算定月の前12ヶ月で)

【ターミナルケア加算・ターミナルケア療養費算定数】

	R4.4月	R4.5月	R4.6月	R4.7月	R4.8月	R4.9月	R4.10月	R4.11月	R4.12月	R5.1月	R5.2月	R5.3月	通計
介護(ターミナルケア加算)	0	0	1	1	0	1	0	0	0	2	1	2	8
医療(ターミナルケア療養費)	0	1	0	1	1	2	0	0	2	5	0	3	15

令和4年		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	通計	平均
利用者数 (人)	看護	88	95	89	98	92	90	87	91	90	96	90	92	1098	91.5
	リハビリ	27	31	29	31	28	28	31	30	32	31	30	30	358	29.8
	重複	17	21	20	22	22	22	22	25	23	25	24	27	270	22.5
	看護前年対比	106.0%	108.0%	94.7%	105.4%	96.8%	97.8%	88.8%	107.1%	97.8%	106.7%	95.7%	105.7%		100.9%
	リハビリ前年対比	81.8%	88.6%	78.4%	93.9%	84.8%	80.0%	86.1%	90.9%	97.0%	88.6%	96.8%	100.0%		88.9%
訪問件数 (H29年4月～リ ハ実訪問件数)	看護	450	419	419	437	444	364	352	370	373	362	371	423	4,784	399
	リハビリ	187	203	232	210	241	195	209	220	233	194	212	227	2,563	214
	看護前年対比	120.0%	110.6%	89.9%	102.8%	95.1%	84.3%	71.8%	84.3%	85.4%	88.5%	98.9%	97.0%		94.0%
	リハビリ前年対比	73.9%	90.6%	88.5%	88.2%	131.0%	76.5%	76.8%	96.1%	93.6%	83.6%	106.5%	96.2%		91.8%
常勤換算数 (管理者1)	看護	6.5	6.6	6.3	7.4	7.6	7.2	7.1	7.2	7.5	7.1	7.4	7.3	85.2	7.1
	リハビリ	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	19.2	1.6
	合計	8.1	8.2	7.9	9.0	9.2	8.8	8.7	8.8	9.1	8.7	9.0	8.9	104.4	8.7
職員1人当りの 訪問件数(管理 者0.5)	看護	75	69	72	63	63	54	53	55	53	55	54	62	729	60.7
	リハビリ	117	127	145	131	151	122	131	138	146	121	133	142	1,602	133.5
	平均	95.9	97.8	108.6	97.3	106.6	88.1	92.0	96.4	99.5	88.0	93.1	102.0		97.1

R4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	通計	平均
退院時共同指導加算算定数(院内)	4	2	0	6	1	2	3	1	4	2	3	6	34	2.83333
退院時共同指導加算算定数(院外)	0	1	0	0	0	1	1	0	1	1	0	1	6	0.5
サービス担当者会議参加数(看護)	3	4	6	5	0	0	9	4	0	0	5	3	39	3.3

【祝日、土・日曜日訪問件数】 ※緊急訪問を除く

R4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	通計	平均
看護師訪問件数	16	20	3	6	17	4	6	10	7	19	4	5	117	9.75

R4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	通計	平均
看護師訪問件数/1日	3.5	3.5	3.2	3	2.8	2.6	2.6	2.6	2.8	2.8	2.9	2.8	35.1	2.9

院外活動報告

学会・研究会発表……………	100
院外講演会・勉強会講師……………	102
論文・雑誌掲載……………	103

■ 学会・研究会発表

主催／タイトル	発表者／職種	日付／場所（※開催地）
第 72 回日本東洋医学会年次学術 総会 病院における西洋薬と漢方薬併 用治療実績の検討	丹村 敏則 (医師)	令和 4 年 5 月 29 日 WEB 発表 北海道 札幌市
第 63 回日本人間ドック学会 ドック・検診受診者を対象にした 「社会栄養学」の実践	丹村 敏則 (医師)	令和 4 年 9 月 3 日 WEB 発表 千葉県 千葉市
第 37 回日本糖尿病合併症学会総 会 SGLT2 阻害薬内服中の感染症のイ ンスリン作用について	丹村 敏則 (医師)	令和 4 年 10 月 22 日 WEB 発表 京都府 京都市
第 26 回日本病態栄養学会年次学 術集会 入院患者の栄養療法と漢方併用 療法の実践例の検討	丹村 敏則 (医師)	令和 5 年 1 月 14 日 WEB 発表 京都府 京都市
知多地区診療放射線技師会冬期 研修会 脳 MRA シーケンスの改善	坂井 大仁 (診療放射線技師)	令和 5 年 2 月 16 日 WEB 発表
第 71 回日本医学検査学会 新型コロナウイルス感染症病棟におけ る Freestyle リブレを用いた血 糖測定の有用性と問題点	村上 智美 (臨床検査技師)	令和 4 年 5 月 21 日 WEB 発表 大阪府 大阪市
第 14 回 LAMP 研究会 当院での COVID-19 感染拡大防止 の取り組み	松田 唱吾 (臨床検査技師)	令和 5 年 2 月 25 日 東京国際フォーラム 東京都 千代田区
第 34 回 愛知 NST 研究会 長期のリハビリと胃瘻栄養で経 口摂取可能となった反復性誤嚥 性肺炎の一例	茶谷 公治 (言語聴覚士)	令和 4 年 11 月 5 日 名古屋市
第 23 回知多半島栄養サポートフ ォーラム 胃癌術後の体組成変化について	増田 明啓 (管理栄養士)	令和 5 年 1 月 28 日 半田市

主催／タイトル	発表者／職種	日付／場所（※開催地）
第50回 JA 愛知厚生連 下肢牽引位手術における皮膚障 害危険因子の比較事例検討	榊原 沙世子 (看護師)	令和4年11月12日 名古屋国際会議場
第71会日本農村医学会 知多厚生病院にて取り組む医師 事務作業のタスクシフトについ て	浅野 彰大 (事務職)	令和4年10月14日 山口県 山口市

■ 院外講演会・勉強会講師

主催／タイトル	発表者	日付／場所（※開催地）
和歌山フレイルセミナー 糖尿病患者におけるフレイル対策について（特別講演）	丹村 敏則 （医師）	令和4年4月21日 WEB講演 和歌山県
碧南市医師会医学研究会 高齢者医療における性ようやく・漢方併用効果（特別講演）	丹村 敏則 （医師）	令和4年6月23日 WEB講演 碧南市
阿賀野市多職種講演会 高齢者医療に対する漢方薬治療（講演）	丹村 敏則 （医師）	令和4年7月21日 WEB講演 新潟県 阿賀野市
滋賀県甲賀市医師会研修会 高齢者における栄養と漢方併用治療（特別講演）	丹村 敏則 （医師）	令和4年10月1日 WEB講演 滋賀県 甲賀市
青森県医師会講演会 内分泌・糖尿病疾患の治療薬の使い分けについて（特別講演）	丹村 敏則 （医師）	令和4年10月11日 WEB講演 青森県
豊田加茂医師会学術講演会 チーム医療における漢方薬の活用（特別講演）	丹村 敏則 （医師）	令和5年1月28日 WEB講演 豊田市
糖尿病の最新治療と高齢者の治療・指導について（特別講演）	丹村 敏則 （医師）	令和5年2月9日（木） 愛知県半田保健所
神経系難病患者・家族教室 神経系難病のための口腔機能のリハビリテーション	茶谷 公治 （言語聴覚士）	令和4年12月14日 半田保健所
介護予防教室 認知症に負けないための脳トレ講座	矢野 喬之 （作業療法士）	令和4年12月19日 美浜町役場

■ 論文・雑誌掲載

発行／タイトル	掲載者／職種	日付／ページ
論文・雑誌掲載はありませんでした。		

